

令和5年度 歴史総合 シラバス

教科：地理歴史科 履修学年：2年生(普通科)
科目：歴史総合 単位数：2単位

教科書：「わたしたちの歴史 日本から世界へ」山川出版社
副教材：「わたしたちの歴史 日本から世界へ ノート」山川出版社
副読本：「新詳 歴史総合」浜島書店

1. 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

2. 科目全体の評価の観点（指導要領の目標）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3. 年間指導計画例

部	章	節	授業 時数	評価の規準			評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
巻頭資料 歴史の舞台		東アジア	－	・東アジアの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・農耕民と遊牧民の関係のなかで中国の歴史が展開してきたことを理解できている。	・漢字・儒教・仏教を受容した東アジア諸地域の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら東アジア諸地域の特色を確認し、共通点と相違点について分析しようとしている。 ・日本の歴史と東アジアの関係を追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		南アジア・東南アジア		・インドの歴史を諸宗教と関連付けて理解できている。 ・東南アジアの風土と多様性を理解できている。	・東南アジアで海上交易が盛んにおこなわれた背景やその結果について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら南アジア・東南アジアの歴史を風土や諸宗教と関連付けて分析しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		西アジア		・西アジアの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・メソポタミアやエジプトに誕生した古代文明の特色を理解できている。 ・イスラーム教の成立と広がりについて理解できている。	・ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教という3つの一神教の共通点と相違点について考察し、表現できている。 ・イスラーム教の特徴について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら西アジアで高度な文明が成立したことや、3つの一神教が誕生したこと、現代に与えた影響について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		ヨーロッパ		・ヨーロッパの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・現代の主権国家体制がヨーロッパで成立したことを理解できている。	・ヨーロッパの歴史とキリスト教徒の関連について考察し、表現できている。 ・ヨーロッパの対外進出と世界の一体化の関連について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらヨーロッパの歴史とキリスト教との関係について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		アメリカ大陸		・アメリカ大陸の地域区分と諸地域の概要を理解できている。 ・アメリカ大陸に成立した古代文明の概要を理解できている。	・ヨーロッパの進出と現代のアメリカ大陸諸地域との関係について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらアメリカ大陸の歴史について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		アフリカ大陸		・アフリカ大陸の風土と前近代の諸地域の概要を理解できている。	・アフリカ大陸の植民地化と現代の諸問題との関係について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらアフリカ大陸の歴史について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）

歴史の扉		1 歴史と私たち 学校の歴史	1	・「学校の歴史」を題材に私たちの生活や身近な地域などにみられる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解できている。 ・「広がり」を考える際には、空間的な広がりや階層的な広がりを考えることが大切であることを理解できている。	・諸資料や図版などから適切に情報を読み取り、公教育の始まりや学校の役割を判断できている。 ・「学校の歴史」を題材に近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現できている。	・身近な題材に対して自ら「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。	グループ協議・発表・ リアクションペーパー
		2 歴史と資料 学校給食の歴史	2	・「学校給食の歴史」を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解できている。	・資料や図版などから適切に情報を読み取り、時期や立場による書かれ方の違いなどを判断できている。 ・「学校給食の歴史」を題材に複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを整理し、表現できている。	・資料から読み取ったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。 ・資料を読み取る際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。	グループ協議・発表・ リアクションペーパー
	近代化への問い		3 4	・資料を利用して、交通の発達や貿易の拡大が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、産業発達と人口増加の関連が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、身分を問わずに権利を有することや義務を課することが近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、学校教育の均質化・一般化が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、産業革命による労働の変化と家族のあり方の変化が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、移民の増加が近代化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、交通の発達や貿易の拡大が近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、産業革命前後に発生した産業と人口の変化の関係性について考察し、表現できている。 ・諸資料から、日本で19世紀におこなわれた、身分を問わずに義務を課そうとする動きや、同様に身分を問わずに権利を獲得しようとする動きの関係性について考察し、表現できている。 ・諸資料から、学校教育の均質化・一般化が近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、産業革命によって労働環境・家族形態が変化する理由について考察し、表現できている。 ・諸資料から、近代において移民が増大した理由について考察し、表現できている。	・交通の発達や貿易の拡大について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・産業の発達や人口の増加について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・権利と義務の関係性について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・学校教育の均質化・一般化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・産業革命にともなう労働や家族の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・近代における移民増加の背景について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	1 18世紀の世界とアジア		5	・アジア産の世界商品がヨーロッパでどのように扱われていたかを理解できている。 ・大西洋三角貿易の構造を理解できている。 ・「鎖国」体制の形成過程を理解できている。	・18世紀のヨーロッパ人の中国観について資料をもとに考察し、表現できている。 ・貿易統制と産業発達の関係や全国市場の形成について考察し、表現できている。	・18世紀のアジアと日本の概況やヨーロッパとの関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	考えてみよう！	琉球と蝦夷地	6	・琉球王国と蝦夷地が半ば独立した存在であったことを理解できている。 ・蝦夷地とアイヌの歴史・文化について理解できている。	・資料や図版などから、琉球王国が海上交易で繁栄していた理由や海上交易が琉球王国に与えた影響について考察し、表現できている。	・琉球と蝦夷地が日本に組み込まれていく歴史について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	2 産業革命		7	・産業革命がイギリスで始まったことを理解できている。 ・労働運動が発生する背景や労働者の要求を理解できている。	・資料や図版などから、産業革命による技術革新の連鎖や世界の結びつきの変化について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、工業化や都市化がもたらした問題や民衆の反応について考察し、表現できている。	・産業革命の過程と社会問題の発生について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	3 アヘン戦争と日本		8	・イギリスの三角貿易について理解できている。 ・アヘン戦争後、欧米諸国による東アジア進出が進んだことを理解できている。	・資料や図版などから、外国船出沒の理由について考察し、表現できている。 ・江戸幕府が対外政策を変化させた理由について考察し、表現できている。	・アヘン戦争の経緯とこれが日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	4 日本の開国		9	・ペリー来航の背景とそれに対する江戸幕府の対応を理解できている。 ・開国から通商開始に至る経緯を理解できている。 ・洋学の発達を具体例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、江戸幕府が開国だけでなく通商も開始した理由やこの時期に結んだ諸条約の特徴について考察し、表現できている。	・ペリー来航から通商開始に至る歴史について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

第 I 部 近 代 化 と 私 た ち	考えてみよう！	江戸時代	10	・江戸時代の統治の特徴を理解できている。 ・江戸時代における経済発展の経緯を理解できている。	・資料や図版などから、ペリー来航後の近代化の進展と江戸時代の経済発展の関連性について考察し、表現できている。	・江戸時代の特徴を多角的にとらえることについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	I 学期中間試験		11				
	5	日本開国期の国際情勢	12	・「西洋の衝撃」に対するアジア諸地域の反応について理解できている。 ・列強が非欧米世界へ進出する一方で、たがいに対立することもあったことを理解できている。	・資料や図版などから、太平天国の蜂起・第2次アヘン戦争を経て中国の政策がどのように変化したかということについて考察し、表現できている。 ・日本が開国後も比較的安定した対外関係を維持できた理由について考察し、表現できている。	・開国期の国際情勢が日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	6	開国後の日本社会	13	・開港後の社会混乱について理解できている。 ・開港前後の時期に将軍後継者問題など国内の政治混乱があったことを理解できている。	・資料や図版などから、開港が社会に与えた影響について考察し、表現できている。 ・対外貿易と倒幕運動の関係について考察し、表現できている。	・開港と倒幕運動の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	7	市民革命と国民統合	14	・自然法思想や社会契約説の概要について理解できている。 ・アメリカ独立やフランス革命の概要と両者の関係を理解できている。 ・「自由」「平等」という概念が近代自然法の思想から生まれたことを理解できている。	・資料や図版などから、自然法思想・社会契約説と市民革命の関係について考察し、表現できている。 ・ナポレオンの征服活動が被征服地に与えた影響について考察し、表現できている。	・市民革命と国民統合の関連性について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	考えてみよう！	国民国家と多民族国家	15	・主権国家や国民国家の特徴を理解できている。 ・日本における国民国家形成の過程について理解できている。	・資料や図版などから、主権国家・国民国家の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・国民国家と多民族国家の特徴について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	8	明治維新	16	・大政奉還から王政復古の号令を経て戊辰戦争がおこった過程を理解できている。	・大政奉還をおこなった徳川慶喜の思惑とこれに対する倒幕派の反応について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、明治政府の政策の新しい面とかわらなかった面について考察し、表現できている。	・明治維新の意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	9	富国強兵と文明開化	17	・徴兵令・地租改正・殖産興業の概要について理解できている。 ・文明開化の具体的な内容を理解できている。	・資料や図版などから、文明開化による変化について考察し、表現できている。	・富国強兵や文明開化が日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	10	日本の明治初期の外交	18	・不平等条約の解消が大きな課題であったことを理解できている。 ・近隣諸国との外交を具体的な事例にもとづいて理解できている。	・資料や図版などから、明治初期の外交の特徴について考察し、表現できている。	・明治初期の外交と日本の領域が画定したことについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	11	大日本帝国憲法の制定	19	・自由民権運動の展開について理解できている。 ・大日本帝国憲法の制定過程や憲法の内容を理解できている。	・資料や図版などから、自由民権運動が始まった背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大日本帝国憲法の特徴について考察し、表現できている。	・自由民権運動の展開と大日本帝国憲法制定の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

12 日本の産業革命と日清戦争		20	・明治期の日本で進展した産業革命の概要を理解できている。 ・日清戦争の原因と結果を理解できている。	・資料や図版などから、産業革命による生産様式の変化や貿易への影響について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日清戦争の原因や当時の国際関係について考察し、表現できている。	・日本における産業革命の進展や日清戦争の経過について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
13 帝国主義		21	・第2次産業革命の進展には植民地や勢力圏獲得が必要であったことを理解できている。 ・帝国主義時代のおもな分割対象がアフリカと太平洋海域であったことを理解できている。 ・列強の中国進出とこれに対する中国側の反応を理解できている。	・資料や図版などから、帝国主義時代の世界分割の特徴や現代の諸問題との関連について考察し、表現できている。 ・列強間における国際関係の再編がおよぼした影響について考察し、表現できている。	・帝国主義時代の世界分割と国際関係の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
14 日露戦争と韓国併合		22	・日露戦争の一因に韓国をめぐる日本とロシアの対立があったことを理解できている。 ・日露戦争の経過とポーツマス条約の内容について理解できている。 ・不平等条約改正の過程について理解できている。	・資料や図版などから、20世紀初頭の東アジアをめぐる情勢について考察し、表現できている。 ・日露戦争での勝利が、列強支配下にあったアジア諸民族に与えた影響について考察し、表現できている。	・日露戦争とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
I 学期期末試験		23				
いまの私たちにつながる課題	自由・制限／対立・協調	24	・自由・制限の観点から、貿易に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解できている。 ・対立・協調の観点から、ペリー来航後の国内対立、超然内閣をめぐる対立、対ロシア政策をめぐる対立に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解できている。	・自由・制限の観点から、貿易政策をめぐる国際間ないしは国内での意見の相違に着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ・対立・協調の観点から、ペリー来航、帝国議会の運営、対ロシア政策でそれぞれの勢力が描いた政治構想を比較して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	・自由・制限について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりを見出そうとしている。 ・対立・協調について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やベアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
国際秩序の変化や大衆化への問い	①国際関係の緊密化 ②アメリカ合衆国とソ連の台頭 ③植民地の独立 ④大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化 ⑤生活様式の変化	25 26	・資料を利用して、生産力の向上や科学技術の発達による戦争の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、アメリカ合衆国とソ連の台頭が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後の植民地問題への取組みが国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後の政治・経済・社会の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後におきた生活様式の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、生産力の向上や科学技術の発達戦争に与えた影響について考察できている。 ・諸資料から、アメリカ合衆国とソ連の工業生産の増加について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の植民地独立の特徴について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の世界各地でおこった大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の生活様式の変化とその影響について考察できている。	・19世紀後半から20世紀にかけての国際関係の緊密化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・アメリカ合衆国とソ連の台頭が国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後における植民地の独立について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後の世界各地における大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後に世界各地で進んだ生活様式の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やベアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
I 大衆運動の芽え		27	・日露戦争後に日米関係が悪化した背景の1つとして日本の東アジア進出があったことを理解できている。 ・第1次ロシア革命や日比谷焼打ち事件を大衆運動の表れとして理解できている。 ・第1次護憲運動に始まる大正デモクラシーの概要を理解できている。	・資料や図版などから、日本の東アジア進出に対する列強の反応について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大衆運動と大正デモクラシーの関係について考察し、表現できている。	・大衆運動の展開と社会の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やベアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
2 第一次世界大戦		28	・第一次世界大戦開戦直前の国際関係を理解できている。 ・第一次世界大戦の経過を具体的な事件とあわせて理解できている。 ・「総力戦」の内容を理解できている。	・資料や図版などから、第一次世界大戦に至る国際関係について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、「総力戦」の意味と第一次世界大戦が総力戦となった要因を考察し、表現できている。	・第一次世界大戦の概要や性格について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

3	第一次世界大戦と日本	29	・日英同盟が参戦の口実となったことや二十一カ条の要求のねらいについて理解できている。 ・大戦景気、戦後恐慌の特徴について理解できている。	・資料や図版などから、日本が参戦する理由について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大戦景気から戦後恐慌に転じた要因について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦と日本の関連について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
4	ロシア革命とその影響	30	・社会主義の誕生と工業化の関係について理解できている。 ・ロシア革命の経過とソ連の成立について理解できている。 ・ロシア革命の影響で世界各地に共産党が結成されたことを理解できている。	・資料や図版などから、ロシア革命がおきた背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、ロシア革命の影響について考察し、表現できている。	・ロシア革命とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
5	社会運動の広がり	31	・人々の権利意識の高まりが参政権の拡大につながったことを理解できている。 ・日本国内の多様な社会運動の展開について、具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、米騒動のおきた背景や広がりについて考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日本の社会運動の多様性について考察し、表現できている。	・権利意識の高まりと社会運動の広がりの関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
6	国際協調	32	・ヴェルサイユ体制とワシントン体制の特徴を主導した国々の動向とあわせて理解できている。 ・ヴェルサイユ体制下でドイツの復興が一定程度進んだことを理解できている。 ・日本の国際協調について具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、ヴェルサイユ体制がドイツに与えた影響について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦後における国際協調の広がりについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
7	アジアの民族運動	33	・アジア諸地域の民族運動の特徴を地域ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。 ・アジア諸地域における民族運動に対する列強の対応を具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、第一次世界大戦後のアジア諸地域における民族運動の広がりについて考察し、表現できている。 ・イギリスの多重外交の問題点と現代に与えた影響について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦後におけるアジア諸地域の民族運動やその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	8 大量生産・大量消費社会		34	・アメリカ合衆国に始まる大量生産・大量消費社会の特徴を具体的事例とあわせて理解できている。 ・日本における都市化の影響を具体的事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、大量生産・大量消費社会の抱える負の側面について考察し、表現できている。	・大量生産・大量消費社会の特徴やこれがもたらした影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	大衆文化としてのスポーツ、野球	35	・「ベースボール」が「野球」として根付いていった過程について理解できている。 ・昭和時代に野球以外のスポーツが発展したことやその背景を理解できている。	・資料や図版などから、大衆文化として野球をはじめとするスポーツが成長したことについて考察し、表現できている。	・大衆文化としてのスポーツの意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	大衆文化としての映画	36	・フランスで発明された映画が世界各地に広がっていく過程を理解できている。 ・第一次世界大戦期からアメリカで映画産業が発展したことについて具体的事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、アメリカにおける映画産業の発達について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、プロパガンダとして利用される映画の特徴について考察し、表現できている。	・大衆文化としての映画の意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	9 世界恐慌		37	・世界恐慌がアメリカ合衆国から始まったことを理解できている。 ・世界恐慌に対する各国の経済政策を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・日本は1920年代の慢性的な不況のなかで世界恐慌の影響を受けたことを理解できている。	・資料や図版などから、世界恐慌の深刻さや各国の対応について考察し、表現できている。	・世界恐慌と各国の対応について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	2 学期中間試験		38			
	10 独裁勢力の台頭		39	・ファシズム体制が成立した国とこの体制の特徴を理解できている。 ・スターリン支配下のソ連も独裁体制にあったことを理解できている。	・資料や図版などから、ファシズム体制が成立した背景や人々の支持を得た要因について考察し、表現できている。 ・ファシズム体制の特徴とスターリン支配下のソ連の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・ファシズムに代表される独裁体制が台頭した原因やその後の経緯について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	11 日本のアジア侵出		40	・中国の統一が国民党を中心に進められたことを理解できている。 ・日本は統一の過程だけでなく統一後の中国に対しても様々な干渉を加えたことを具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、中国統一に対する日本の干渉やその影響を考察し、表現できている。 ・日本において軍部が台頭した背景について考察し、表現できている。	・中国統一の進行と日本のアジア侵出の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	12 第二次世界大戦		41	・ナチ党政権下のドイツが進めた領土拡大がヨーロッパの国際関係を不安定なものにしたことを理解できている。 ・ドイツが占領地やユダヤ人、スラヴ系の人々に対しておこなったことを理解できている。	・資料や図版などから、第二次世界大戦に向かう国際関係の特徴やドイツの行動について考察し、表現できている。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦の特徴と戦争の経過について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	13 第二次世界大戦と日本		42	・日本の中国侵出がアメリカ・イギリスとの対立を深め、太平洋戦争が勃発したことを理解できている。 ・日本政府や軍部が戦争に関する不都合な情報を隠していたことを理解できている。	・資料や図版などから、日本が太平洋戦争を始めた理由について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、「大東亜共栄圏」の理念と実際の占領政策との違いを考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日本政府や軍部の情報統制と国民生活について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦と日本の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	14 第二次世界大戦の終結		43	・連合国が戦争終結までに開催した会談の概要について理解できている。 ・ドイツとイタリアが敗戦に至る過程を理解できている。 ・日本が敗戦に至る過程を理解できている。	・資料や図版などから、第二次世界大戦による被害や犠牲について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦の終結過程について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価

15 戦後国際秩序		44	・第二次世界大戦後の国際秩序の特徴について理解できている。 ・敗戦国における戦後処理の特徴を地域ごとに理解できている。	・資料や図版などから、国際連盟と国際連合の共通点と相違点について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、敗戦国における戦後処理の違いについて考察し、表現できている。	・戦後国際秩序の特徴や問題点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
16 冷戦の始まり		45	・第二次世界大戦後のヨーロッパで、社会主義への共感が生まれていたことを理解できている。 ・ヨーロッパにおける冷戦の推移を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・冷戦がアジアの国家建設に与えた影響を具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、ヨーロッパにおける冷戦の推移と東西両陣営の対応について考察し、表現できている。	・冷戦の開始が同時代の国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
17 日本の戦後改革と日本国憲法		46	・日本には間接統治が適用されていたことを理解できている。 ・戦後改革の内容を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・日本国憲法の特徴について三原則をもとに理解できている。	・資料や図版などから、戦後改革の目的と成果について考察し、表現できている。 ・大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点について考察し、表現できている。	・日本の戦後改革の内容と日本国憲法制定について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
18 日本の独立		47	・占領政策が経済的自立と政治の安定を優先させるように転換されたことを理解できている。 ・サンフランシスコ平和条約の締結と同時に日米安全保障条約が結ばれたことを理解できている。	・資料や図版などから、朝鮮戦争と日本の独立との関係について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、サンフランシスコ平和条約や独立後の日本の課題について考察し、表現できている。	・日本の独立に至る経緯と独立後の課題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
いまの私たちにつながる課題	統合・分化／平等・格差	48	①統合・分化の観点から、クルド人に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できている。 ②平等・格差の観点から、女性の諸権利獲得運動にみられる格差と平等の実現に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できている。	①統合・分化の観点から、クルド人の歴史や民族運動などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ②平等・格差の観点から、女性の諸権利獲得運動にみられる男女の格差と平等の実現の過程、およびそれぞれの運動の内容に着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	①統合・分化について、クルド人の歴史や民族運動を考察し、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 ②平等・格差について、女性の諸権利獲得運動を考察し、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。
2学期期末試験		49			
グローバル化への問い	①冷戦と国際関係 ②人と資本の移動 ③高度情報通信 ④食料と人口 ⑤資源・エネルギーと地球環境 ⑥感染症 ⑦多様な人々の共存	50 51	・資料を利用して、核兵器の拡散がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、人と資本の移動がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用し、ICT技術の発達と普及がグローバル化の重要な側面であると理解できている。 ・資料を利用して、世界人口の増加と食料生産のバランスがグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、国境をこえた環境問題がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、人々の移動の活発化と感染症の拡大がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、パレスチナやカナダのケベック州における共存に向けた取り組みや問題点がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、核兵器の拡散と冷戦の関係について考察し、表現できている。 ・諸資料から、人や資本の移動の影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、情報通信技術の発達と普及について考察し、表現できている。 ・諸資料から、世界の人口の伸びと食料生産の問題について考察し、表現できている。 ・諸資料から、ヨーロッパにおける酸性雨の拡大や解決の方策について考察し、表現できている。 ・諸資料から、グローバル化と感染症の関係について考察し、表現できている。 ・諸資料から、多様な人々の共生と衝突について考察し、表現できている。	・今日に至るまでの核開発競争について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・人や資本の移動とグローバル化の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・情報通信技術の発達と普及について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・飢餓の現状や国際社会の取り組みなどの世界の人口問題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・SDGsとも関連させながら、資源・エネルギー源の拡大と地球環境の両立について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・2020年のコロナウィルスの世界的流行とグローバル化された社会における感染症の蔓延について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・多様な人々が共存する社会の発展について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価

1 第三世界の登場	52	・アジア諸地域の独立過程を地域ごとに理解できている。 ・独立の過程で印パ紛争やパレスチナ問題など現在まで続く問題も生じたことを理解できている。 ・非同盟主義の概要について理解できている。	・資料や図版などから、欧米による植民地支配がアジア諸地域にもたらした影響を考察し、表現できている。 ・アジア・アフリカ諸国が第三世界として連帯した背景について考察し、表現できている。	・第三世界の登場と国際的な影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
2 冷戦の固定化と「雪どけ」	53	・冷戦構造の拡大と核軍備拡大競争の過程を理解できている。 ・反核兵器運動の概要について理解できている。 ・ラテンアメリカと冷戦の関係を理解できている。	・資料や図版などから、「雪どけ」が東西両陣営に与えた影響を考察し、表現できている。	・冷戦の拡大と固定化が同時代の国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
3 冷戦の展開	54	・スターリン批判に触発されてハンガリー事件がおきたことを理解できている。 ・ソ連の政策転換に反発した中国では、文化大革命によって毛沢東が権力を握ったことを理解できている。 ・スエズ戦争が他の中東戦争とは違う性格を有することを理解できている。	・資料や図版などから、キューバ危機のおきた原因とこれが国際社会に与えた影響について考察し、表現できている。	・冷戦の展開と世界各地の動向について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
4 55年体制と安保闘争	55	・保革対立や「逆コース」の概要を理解できている。 ・55年体制の内容と意義を理解できている。 ・日本が国際社会に復帰する過程を理解できている。	・55年体制が成立する背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、安保闘争が高揚した原因について考察し、表現できている。	・保守勢力と革新勢力の対立点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
5 高度経済成長の光と影	56	・高度経済成長の過程を理解できている。 ・高度経済成長の負の側面として地域間格差や生活環境の悪化の問題が生じたことを理解できている。	・資料や図版などから、高度経済成長による人々の生活や意識の変化について考察し、表現できている。	・高度経済成長の光と影について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
6 ベトナム戦争とアメリカ	57	・ベトナム戦争の特徴と戦争の経過を理解できている。 ・アメリカ国内の公民権運動がベトナム戦争と連動していたことを理解できている。 ・アメリカの対東アジア政策の転換が米中接近や沖縄返還をもたらしたことを理解できている。	・資料や図版などから、ベトナム戦争が北側の勝利に終わった背景について考察し、表現できている。	・ベトナム戦争がアメリカに与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

第3部 グローバル化と私たち	7 経済構造の変化		58	・ドル＝ショックの概要と国際経済に与えた影響を理解できている。 ・1970年代前半の経済危機への対応の1つがサミットであったことを理解できている。 ・第2次石油危機をイラン情勢との関係から理解できている。	・資料や図版などから、第1次石油危機と中東戦争の関係について考察し、表現できている。	・1970年代の経済危機の概要と西側諸国の対応について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	8 日本の経済大国化		59	・貿易黒字の増大が省エネや技術革新によるものであったことを理解できている。 ・貿易摩擦の意味を理解できている。 ・製造業が衰退する一方、IT産業が勃興したことを理解できている。	・資料や図版などから、日本が経済大国化する過程や貿易摩擦の発生について考察し、表現できている。	・日本の経済大国化の過程とそれにもなう対外関係の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	日本の政府開発援助	60	・日本の政府開発援助の歴史や支援の内容について理解できている。 ・民間の援助も政府によるODAと同じく重要な役割を果たしていることを理解できている。	・資料や図版などから、日本のODAの課題を考察し、表現できている。	・日本の対外援助の特徴や課題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	9 アジアの経済成長		61	・アジアの経済成長には地域的な偏りがあることを理解できている。 ・NIESやASEANの概要について理解できている。 ・南北問題と南南問題の違いを理解できている。	・資料や図版などから、アジアの経済成長について考察し、表現できている。	・アジアの経済成長の特徴や問題点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	10 社会主義の停滞と新自由主義		62	・社会主義停滞の原因には経済だけでなく政治的な抑圧もあったことを理解できている。 ・社会主義的な国家運営への疑問が西側諸国における新自由主義の台頭につながったことを理解できている。 ・新自由主義に立脚した政策を国ごとに理解できている。	・資料や図版などから、社会主義停滞の原因について考察し、表現できている。	・社会主義の停滞と新自由主義の対等の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	11 冷戦の終結		63	・ベレストロイカの概要や東欧革命の経過を理解できている。 ・冷戦の終結とソ連の解体との関係を理解できている。 ・東アジアで社会主義体制が維持された理由を理解できている。	・資料や図版などから、冷戦の終結について考察し、表現できている。	・冷戦の終結とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	12 冷戦後の地域紛争		64	・冷戦終結後の地域紛争について地域ごとの具体的な事例とあわせて理解できている。 ・地域紛争解決のために国際連合や日本の果たす役割について理解できている。	・資料や図版などから、冷戦終結後の地域紛争の背景を考察し、表現できている。	・冷戦終結後の地域紛争解決のために必要なことについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	国連平和維持活動	65	・国連平和維持活動の概要や国際連合憲章の「6章半」の意味を理解できている。	・資料や図版などから、日本のPKO活動について考察し、表現できている。	・国連平和維持活動のあり方について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	13 地域統合		66	・EU結成に至るヨーロッパ統合の過程を理解できている。 ・ASEANの性格が変化したことを理解できている。	・資料や図版などから、現代の地域連合の特徴について考察し、表現できている。 ・イギリスのEU脱退の理由について考察し、表現できている。	・地域統合の進展と役割について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

14 現代世界の諸課題		67	・現代社会の諸課題を分野ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。 ・多文化主義や少数者の権利確保の動きが誕生した背景を理解できている。	・資料や図版などから、現代社会の諸課題や深刻な状況を考察し、表現できている。	・現代社会の諸課題の解決に向けて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
15 日本の諸課題		68	・55年体制崩壊後の政界再編の概要について理解できている。 ・バブル景気崩壊後の不況によって生じた諸問題について理解できている。 ・現代の日本が抱える諸課題を分野ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、現在の日本が抱える諸課題を解決する方向性を考え、表現できている。	・現代の日本が抱える諸課題の解決に向けて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
学年末試験		69				
いまの私たちにつながる課題	対立・協調／開発・保全	70	①対立・協調の観点から、平和や国際理解のために懸命に尽くした人々に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わるグローバル化の歴史を理解できている。 ②開発・保全の観点から、地球環境問題に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わるグローバル化の歴史を理解できている。	①対立・協調の観点から、平和や国際理解のために尽くした人々の行動などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ②開発・保全の観点から、地球環境問題に対する現代の取組みに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	①対立・協調について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、1年間の学習をまとめようとしている。 ②開発・保全について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、1年間の学習をまとめようとしている。	グループ協議・発表・リアクションペーパー

令和5年度 歴史総合 シラバス

教科：地理歴史科 履修学年：2年生(国際探究科) 教科書：「わたしたちの歴史 日本から世界へ」山川出版社
科目：歴史総合 単位数：2単位 副教材：「わたしたちの歴史 日本から世界へ ノート」山川出版社
副読本：「新詳 歴史総合」浜島書店

1. 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめず。

2. 科目全体の評価の観点（指導要領の目標）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3. 年間指導計画例

部	章	節	授業 時数	評価の規準			評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
巻頭資料 歴史の舞台		東アジア	－	・東アジアの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・農耕民と遊牧民の関係のなかで中国の歴史が展開してきたことを理解できている。	・漢字・儒教・仏教を受容した東アジア諸地域の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら東アジア諸地域の特色を確認し、共通点と相違点について分析しようとしている。 ・日本の歴史と東アジアの関係を追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		南アジア・東南アジア		・インドの歴史を諸宗教と関連付けて理解できている。 ・東南アジアの風土と多様性を理解できている。	・東南アジアで海上交易が盛んにおこなわれた背景やその結果について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら南アジア・東南アジアの歴史を風土や諸宗教と関連付けて分析しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		西アジア		・西アジアの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・メソポタミアやエジプトに誕生した古代文明の特色を理解できている。 ・イスラーム教の成立と広がりについて理解できている。	・ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教という3つの一神教の共通点と相違点について考察し、表現できている。 ・イスラーム教の特徴について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら西アジアで高度な文明が成立したことや、3つの一神教が誕生したこと、現代に与えた影響について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		ヨーロッパ		・ヨーロッパの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・現代の主権国家体制がヨーロッパで成立したことを理解できている。	・ヨーロッパの歴史とキリスト教徒の関連について考察し、表現できている。 ・ヨーロッパの対外進出と世界の一体化の関連について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらヨーロッパの歴史とキリスト教との関係について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		アメリカ大陸		・アメリカ大陸の地域区分と諸地域の概要を理解できている。 ・アメリカ大陸に成立した古代文明の概要を理解できている。	・ヨーロッパの進出と現代のアメリカ大陸諸地域との関係について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらアメリカ大陸の歴史について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		アフリカ大陸		・アフリカ大陸の風土と前近代の諸地域の概要を理解できている。	・アフリカ大陸の植民地化と現代の諸問題との関係について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらアフリカ大陸の歴史について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）

歴史の扉		1 歴史と私たち 学校の歴史	1	・「学校の歴史」を題材に私たちの生活や身近な地域などにみられる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解できている。 ・「広がり」を考える際には、空間的な広がりや階層的な広がりを考えることが大切であることを理解できている。	・諸資料や図版などから適切に情報を読み取り、公教育の始まりや学校の役割を判断できている。 ・「学校の歴史」を題材に近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現できている。	・身近な題材に対して自ら「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。	グループ協議・発表・ リアクションペーパー
		2 歴史と資料 学校給食の歴史	2	・「学校給食の歴史」を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解できている。	・資料や図版などから適切に情報を読み取り、時期や立場による書かれ方の違いなどを判断できている。 ・「学校給食の歴史」を題材に複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを整理し、表現できている。	・資料から読み取ったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。 ・資料を読み取る際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。	グループ協議・発表・ リアクションペーパー
	近代化への問い		3 4	・資料を利用して、交通の発達や貿易の拡大が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、産業発達と人口増加の関連が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、身分を問わずに権利を有することや義務を課することが近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、学校教育の均質化・一般化が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、産業革命による労働の変化と家族のあり方の変化が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、移民の増加が近代化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、交通の発達や貿易の拡大が近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、産業革命前後に発生した産業と人口の変化の関係性について考察し、表現できている。 ・諸資料から、日本で19世紀におこなわれた、身分を問わずに義務を課そうとする動きや、同様に身分を問わずに権利を獲得しようとする動きの関係性について考察し、表現できている。 ・諸資料から、学校教育の均質化・一般化が近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、産業革命によって労働環境・家族形態が変化する理由について考察し、表現できている。 ・諸資料から、近代において移民が増大した理由について考察し、表現できている。	・交通の発達や貿易の拡大について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・産業の発達や人口の増加について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・権利と義務の関係性について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・学校教育の均質化・一般化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・産業革命にともなう労働や家族の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・近代における移民増加の背景について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	1 18世紀の世界とアジア		5	・アジア産の世界商品がヨーロッパでどのように扱われていたかを理解できている。 ・大西洋三角貿易の構造を理解できている。 ・「鎖国」体制の形成過程を理解できている。	・18世紀のヨーロッパ人の中国観について資料をもとに考察し、表現できている。 ・貿易統制と産業発達の関係や全国市場の形成について考察し、表現できている。	・18世紀のアジアと日本の概況やヨーロッパとの関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	考えてみよう！	琉球と蝦夷地	6	・琉球王国と蝦夷地が半ば独立した存在であったことを理解できている。 ・蝦夷地とアイヌの歴史・文化について理解できている。	・資料や図版などから、琉球王国が海上交易で繁栄していた理由や海上交易が琉球王国に与えた影響について考察し、表現できている。	・琉球と蝦夷地が日本に組み込まれていく歴史について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	2 産業革命		7	・産業革命がイギリスで始まったことを理解できている。 ・労働運動が発生する背景や労働者の要求を理解できている。	・資料や図版などから、産業革命による技術革新の連鎖や世界の結びつきの変化について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、工業化や都市化がもたらした問題や民衆の反応について考察し、表現できている。	・産業革命の過程と社会問題の発生について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	3 アヘン戦争と日本		8	・イギリスの三角貿易について理解できている。 ・アヘン戦争後、欧米諸国による東アジア進出が進んだことを理解できている。	・資料や図版などから、外国船出沒の理由について考察し、表現できている。 ・江戸幕府が対外政策を変化させた理由について考察し、表現できている。	・アヘン戦争の経緯とこれが日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	4 日本の開国		9	・ペリー来航の背景とそれに対する江戸幕府の対応を理解できている。 ・開国から通商開始に至る経緯を理解できている。 ・洋学の発達を具体例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、江戸幕府が開国だけでなく通商も開始した理由やこの時期に結んだ諸条約の特徴について考察し、表現できている。	・ペリー来航から通商開始に至る歴史について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

第 I 部 近 代 化 と 私 た ち	考えてみよう！	江戸時代	10	・江戸時代の統治の特徴を理解できている。 ・江戸時代における経済発展の経緯を理解できている。	・資料や図版などから、ペリー来航後の近代化の進展と江戸時代の経済発展の関連性について考察し、表現できている。	・江戸時代の特徴を多角的にとらえることについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	I 学期中間試験		11				
	5	日本開国期の国際情勢	12	・「西洋の衝撃」に対するアジア諸地域の反応について理解できている。 ・列強が非欧米世界へ進出する一方で、たがいに対立することもあったことを理解できている。	・資料や図版などから、太平天国の蜂起・第2次アヘン戦争を経て中国の政策がどのように変化したかということについて考察し、表現できている。 ・日本が開国後も比較的安定した対外関係を維持できた理由について考察し、表現できている。	・開国期の国際情勢が日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	6	開国後の日本社会	13	・開港後の社会混乱について理解できている。 ・開港前後の時期に将軍後継者問題など国内の政治混乱があったことを理解できている。	・資料や図版などから、開港が社会に与えた影響について考察し、表現できている。 ・対外貿易と倒幕運動の関係について考察し、表現できている。	・開港と倒幕運動の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	7	市民革命と国民統合	14	・自然法思想や社会契約説の概要について理解できている。 ・アメリカ独立やフランス革命の概要と両者の関係を理解できている。 ・「自由」「平等」という概念が近代自然法の思想から生まれたことを理解できている。	・資料や図版などから、自然法思想・社会契約説と市民革命の関係について考察し、表現できている。 ・ナポレオンの征服活動が被征服地に与えた影響について考察し、表現できている。	・市民革命と国民統合の関連性について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	考えてみよう！	国民国家と多民族国家	15	・主権国家や国民国家の特徴を理解できている。 ・日本における国民国家形成の過程について理解できている。	・資料や図版などから、主権国家・国民国家の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・国民国家と多民族国家の特徴について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	8	明治維新	16	・大政奉還から王政復古の号令を経て戊辰戦争がおこった過程を理解できている。	・大政奉還をおこなった徳川慶喜の思惑とこれに対する倒幕派の反応について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、明治政府の政策の新しい面とかわらなかった面について考察し、表現できている。	・明治維新の意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	9	富国強兵と文明開化	17	・徴兵令・地租改正・殖産興業の概要について理解できている。 ・文明開化の具体的な内容を理解できている。	・資料や図版などから、文明開化による変化について考察し、表現できている。	・富国強兵や文明開化が日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	10	日本の明治初期の外交	18	・不平等条約の解消が大きな課題であったことを理解できている。 ・近隣諸国との外交を具体的な事例にもとづいて理解できている。	・資料や図版などから、明治初期の外交の特徴について考察し、表現できている。	・明治初期の外交と日本の領域が画定したことについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

11 大日本帝国憲法の制定		19	・自由民権運動の展開について理解できている。 ・大日本帝国憲法の制定過程や憲法の内容を理解できている。	・資料や図版などから、自由民権運動が始まった背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大日本帝国憲法の特徴について考察し、表現できている。	・自由民権運動の展開と大日本帝国憲法制定の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
12 日本の産業革命と日清戦争		20	・明治期の日本で進展した産業革命の概要を理解できている。 ・日清戦争の原因と結果を理解できている。	・資料や図版などから、産業革命による生産様式の変化や貿易への影響について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日清戦争の原因や当時の国際関係について考察し、表現できている。	・日本における産業革命の進展や日清戦争の経過について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
13 帝国主義		21	・第2次産業革命の進展には植民地や勢力圏獲得が必要であったことを理解できている。 ・帝国主義時代のおもな分割対象がアフリカと太平洋海域であったことを理解できている。 ・列強の中国進出とこれに対する中国側の反応を理解できている。	・資料や図版などから、帝国主義時代の世界分割の特徴や現代の諸問題との関連について考察し、表現できている。 ・列強間における国際関係の再編がおよぼした影響について考察し、表現できている。	・帝国主義時代の世界分割と国際関係の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
14 日露戦争と韓国併合		22	・日露戦争の一因に韓国をめぐる日本とロシアの対立があったことを理解できている。 ・日露戦争の経過とポーツマス条約の内容について理解できている。 ・不平等条約改正の過程について理解できている。	・資料や図版などから、20世紀初頭の東アジアをめぐる情勢について考察し、表現できている。 ・日露戦争での勝利が、列強支配下にあったアジア諸民族に与えた影響について考察し、表現できている。	・日露戦争とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
I 学期期末試験		23				
いまの私たちにつながる課題	自由・制限／対立・協調	24	・自由・制限の観点から、貿易に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解できている。 ・対立・協調の観点から、ペリー来航後の国内対立、超然内閣をめぐる対立、対ロシア政策をめぐる対立に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解できている。	・自由・制限の観点から、貿易政策をめぐる国際間ないしは国内での意見の相違に着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ・対立・協調の観点から、ペリー来航、帝国議会の運営、対ロシア政策でそれぞれの勢力が描いた政治構想を比較して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	・自由・制限について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりを見出そうとしている。 ・対立・協調について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
国際秩序の変化や大衆化への問い	①国際関係の緊密化 ②アメリカ合衆国とソ連の台頭 ③植民地の独立 ④大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化 ⑤生活様式の変化	25 26	・資料を利用して、生産力の向上や科学技術の発達による戦争の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、アメリカ合衆国とソ連の台頭が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後の植民地問題への取組みが国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後の政治・経済・社会の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後におきた生活様式の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、生産力の向上や科学技術の発達が戦争に与えた影響について考察できている。 ・諸資料から、アメリカ合衆国とソ連の工業生産の増加について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の植民地独立の特徴について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の世界各地でおこった大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の生活様式の変化とその影響について考察できている。	・19世紀後半から20世紀にかけての国際関係の緊密化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・アメリカ合衆国とソ連の台頭が国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後における植民地の独立について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後の世界各地における大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後に世界各地で進んだ生活様式の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価

1 大衆運動の芽ばえ	27	・日露戦争後に日米関係が悪化した背景の1つとして日本の東アジア進出があったことを理解できている。 ・第1次ロシア革命や日比谷焼打ち事件を大衆運動の表れとして理解できている。 ・第1次護憲運動に始まる大正デモクラシーの概要を理解できている。	・資料や図版などから、日本の東アジア進出に対する列強の反応について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大衆運動と大正デモクラシーの関係について考察し、表現できている。	・大衆運動の展開と社会の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
2 第一次世界大戦	28	・第一次世界大戦開戦直前の国際関係を理解できている。 ・第一次世界大戦の経過を具体的な事件とあわせて理解できている。 ・「総力戦」の内容を理解できている。	・資料や図版などから、第一次世界大戦に至る国際関係について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、「総力戦」の意味と第一次世界大戦が総力戦となった要因を考察し、表現できている。	・第一次世界大戦の概要や性格について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
3 第一次世界大戦と日本	29	・日英同盟が参戦の口実となったことや二十一条の要求のねらいについて理解できている。 ・大戦景気、戦後恐慌の特徴について理解できている。	・資料や図版などから、日本が参戦する理由について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大戦景気から戦後恐慌に転じた要因について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦と日本の関連について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
4 ロシア革命とその影響	30	・社会主義の誕生と工業化の関係について理解できている。 ・ロシア革命の経過とソ連の成立について理解できている。 ・ロシア革命の影響で世界各地に共産党が結成されたことを理解できている。	・資料や図版などから、ロシア革命がおきた背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、ロシア革命の影響について考察し、表現できている。	・ロシア革命とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
5 社会運動の広がり	31	・人々の権利意識の高まりが参政権の拡大につながったことを理解できている。 ・日本国内の多様な社会運動の展開について、具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、米騒動のおきた背景や広がりについて考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日本の社会運動の多様性について考察し、表現できている。	・権利意識の高まりと社会運動の広がりについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
6 国際協調	32	・ヴェルサイユ体制とワシントン体制の特徴を主導した国々の動向とあわせて理解できている。 ・ヴェルサイユ体制下でドイツの復興が一定程度進んだことを理解できている。 ・日本の国際協調について具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、ヴェルサイユ体制がドイツに与えた影響について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦後における国際協調の広がりについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	7 アジアの民族運動		33	・アジア諸地域の民族運動の特徴を地域ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。 ・アジア諸地域における民族運動に対する列強の対応を具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、第一次世界大戦後のアジア諸地域における民族運動の広がりについて考察し、表現できている。 ・イギリスの多重外交の問題点と現代に与えた影響について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦後におけるアジア諸地域の民族運動やその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	8 大量生産・大量消費社会		34	・アメリカ合衆国に始まる大量生産・大量消費社会の特徴を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・日本における都市化の影響を具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、大量生産・大量消費社会の抱える負の側面について考察し、表現できている。	・大量生産・大量消費社会の特徴やこれがもたらした影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	大衆文化としてのスポーツ、野球	35	・「ベースボール」が「野球」として根付いていった過程について理解できている。 ・昭和時代に野球以外のスポーツが発展したことやその背景を理解できている。	・資料や図版などから、大衆文化として野球をはじめとするスポーツが成長したことについて考察し、表現できている。	・大衆文化としてのスポーツの意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	大衆文化としての映画	36	・フランスで発明された映画が世界各地に広がっていく過程を理解できている。 ・第一次世界大戦期からアメリカで映画産業が発展したことについて具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、アメリカにおける映画産業の発達について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、プロパガンダとして利用される映画の特徴について考察し、表現できている。	・大衆文化としての映画の意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	9 世界恐慌		37	・世界恐慌がアメリカ合衆国から始まったことを理解できている。 ・世界恐慌に対する各国の経済政策を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・日本は1920年代の慢性的な不況のなかで世界恐慌の影響を受けたことを理解できている。	・資料や図版などから、世界恐慌の深刻さや各国の対応について考察し、表現できている。	・世界恐慌と各国の対応について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	2 学期中間試験		38			
	10 独裁勢力の台頭		39	・ファシズム体制が成立した国とこの体制の特徴を理解できている。 ・スターリン支配下のソ連も独裁体制にあったことを理解できている。	・資料や図版などから、ファシズム体制が成立した背景や人々の支持を得た要因について考察し、表現できている。 ・ファシズム体制の特徴とスターリン支配下のソ連の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・ファシズムに代表される独裁体制が台頭した原因やその後の経緯について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	11 日本のアジア侵出		40	・中国の統一が国民党を中心に進められたことを理解できている。 ・日本は統一の過程だけでなく統一後の中国に対しても様々な干渉を加えたことを具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、中国統一に対する日本の干渉やその影響を考察し、表現できている。 ・日本において軍部が台頭した背景について考察し、表現できている。	・中国統一の進行と日本のアジア侵出の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	12 第二次世界大戦		41	・ナチ党政権下のドイツが進めた領土拡大がヨーロッパの国際関係を不安定なものにしたことを理解できている。 ・ドイツが占領地やユダヤ人、スラヴ系の人々に対しておこなったことを理解できている。	・資料や図版などから、第二次世界大戦に向かう国際関係の特徴やドイツの行動について考察し、表現できている。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦の特徴と戦争の経過について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
						定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価

13 第二次世界大戦と日本		42	・日本の中国侵出がアメリカ・イギリスとの対立を深め、太平洋戦争が勃発したことを理解できている。 ・日本政府や軍部が戦争に関する不都合な情報を隠していたことを理解できている。	・資料や図版などから、日本が太平洋戦争を始めた理由について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、「大東亜共栄圏」の理念と実際の占領政策との違いを考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日本政府や軍部の情報統制と国民生活について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦と日本の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
14 第二次世界大戦の終結		43	・連合国が戦争終結までに開催した会談の概要について理解できている。 ・ドイツとイタリアが敗戦に至る過程を理解できている。 ・日本が敗戦に至る過程を理解できている。	・資料や図版などから、第二次世界大戦による被害や犠牲について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦の終結過程について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
15 戦後国際秩序		44	・第二次世界大戦後の国際秩序の特徴について理解できている。 ・敗戦国における戦後処理の特徴を地域ごとに理解できている。	・資料や図版などから、国際連盟と国際連合の共通点と相違点について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、敗戦国における戦後処理の違いについて考察し、表現できている。	・戦後国際秩序の特徴や問題点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
16 冷戦の始まり		45	・第二次世界大戦後のヨーロッパで、社会主義への共感が生まれていたことを理解できている。 ・ヨーロッパにおける冷戦の推移を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・冷戦がアジアの国家建設に与えた影響を具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、ヨーロッパにおける冷戦の推移と東西両陣営の対応について考察し、表現できている。	・冷戦の開始が同時代の国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
17 日本の戦後改革と日本国憲法		46	・日本には間接統治が適用されていたことを理解できている。 ・戦後改革の内容を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・日本国憲法の特徴について三原則をもとに理解できている。	・資料や図版などから、戦後改革の目的と成果について考察し、表現できている。 ・大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点について考察し、表現できている。	・日本の戦後改革の内容と日本国憲法制定について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
18 日本の独立		47	・占領政策が経済的自立と政治の安定を優先させるように転換されたことを理解できている。 ・サンフランシスコ平和条約の締結と同時に日米安全保障条約が結ばれたことを理解できている。	・資料や図版などから、朝鮮戦争と日本の独立との関係について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、サンフランシスコ平和条約や独立後の日本の課題について考察し、表現できている。	・日本の独立に至る経緯と独立後の課題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
いまの私たちにつながる課題	統合・分化／平等・格差	48	①統合・分化の観点から、クルド人に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できている。 ②平等・格差の観点から、女性の諸権利獲得運動にみられる格差と平等の実現に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できている。	①統合・分化の観点から、クルド人の歴史や民族運動などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ②平等・格差の観点から、女性の諸権利獲得運動にみられる男女の格差と平等の実現の過程、およびそれぞれの運動の内容に着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	①統合・分化について、クルド人の歴史や民族運動を考察し、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 ②平等・格差について、女性の諸権利獲得運動を考察し、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。
2 学期期末試験		49			

	グローバル化への問い	①冷戦と国際関係 ②人と資本の移動 ③高度情報通信 ④食料と人口 ⑤資源・エネルギーと地球環境 ⑥感染症 ⑦多様な人々の共存	50 51	・資料を利用して、核兵器の拡散がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、人と資本の移動がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用し、ICT技術の発達と普及がグローバル化の重要な側面であると理解できている。 ・資料を利用して、世界人口の増加と食料生産のバランスがグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、国境をこえた環境問題がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、人々の移動の活発化と感染症の拡大がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、パレスチナやカナダのケベック州における共存に向けた取り組みや問題点がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、核兵器の拡散と冷戦の関係について考察し、表現できている。 ・諸資料から、人や資本の移動の影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、情報通信技術の発達と普及について考察し、表現できている。 ・諸資料から、世界の人口の伸びと食料生産の問題について考察し、表現できている。 ・諸資料から、ヨーロッパにおける酸性雨の拡大や解決の方策について考察し、表現できている。 ・諸資料から、グローバル化と感染症の関係について考察し、表現できている。 ・諸資料から、多様な人々の共生と衝突について考察し、表現できている。	・今日に至るまでの核開発競争について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・人や資本の移動とグローバル化の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・情報通信技術の発達と普及について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・飢餓の現状や国際社会の取り組みなどの世界の人口問題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・SDGsとも関連させながら、資源・エネルギー源の拡大と地球環境の両立について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・2020年のコロナウィルスの世界的流行とグローバル化された社会における感染症の蔓延について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・多様な人々が共存する社会の発展について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	1 第三世界の登場		52	・アジア諸地域の独立過程を地域ごとに理解できている。 ・独立の過程で印パ紛争やパレスチナ問題など現在まで続く問題も生じたことを理解できている。 ・非同盟主義の概要について理解できている。	・資料や図版などから、欧米による植民地支配がアジア諸地域にもたらした影響を考察し、表現できている。 ・アジア・アフリカ諸国が第三世界として連帯した背景について考察し、表現できている。	・第三世界の登場と国際的な影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	2 冷戦の固定化と「雪どけ」		53	・冷戦構造の拡大と核軍備拡大競争の過程を理解できている。 ・反核兵器運動の概要について理解できている。 ・ラテンアメリカと冷戦の関係を理解できている。	・資料や図版などから、「雪どけ」が東西両陣営に与えた影響を考察し、表現できている。	・冷戦の拡大と固定化が同時代の国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	3 冷戦の展開		54	・スターリン批判に触発されてハンガリー事件がおきたことを理解できている。 ・ソ連の政策転換に反発した中国では、文化大革命によって毛沢東が権力を握ったことを理解できている。 ・スエズ戦争が他の中東戦争とは違う性格を有することを理解できている。	・資料や図版などから、キューバ危機のおきた原因とこれが国際社会に与えた影響について考察し、表現できている。	・冷戦の展開と世界各地の動向について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	4 55年体制と安保闘争		55	・保守対立や「逆コース」の概要を理解できている。 ・55年体制の内容と意義を理解できている。 ・日本が国際社会に復帰する過程を理解できている。	・55年体制が成立する背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、安保闘争が高揚した原因について考察し、表現できている。	・保守勢力と革新勢力の対立点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	5 高度経済成長の光と影		56	・高度経済成長の過程を理解できている。 ・高度経済成長の負の側面として地域間格差や生活環境の悪化の問題が生じたことを理解できている。	・資料や図版などから、高度経済成長による人々の生活や意識の変化について考察し、表現できている。	・高度経済成長の光と影について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

第3部 グローバル化と私たち	6 ベトナム戦争とアメリカ		57	・ベトナム戦争の特徴と戦争の経過を理解できている。 ・アメリカ国内の公民権運動がベトナム戦争と連動していたことを理解できている。 ・アメリカの対東アジア政策の転換が米中接近や沖縄返還をもたらしたことを理解できている。	・資料や図版などから、ベトナム戦争が北側の勝利に終わった背景について考察し、表現できている。	・ベトナム戦争がアメリカに与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	7 経済構造の変化		58	・ドル＝ショックの概要と国際経済に与えた影響を理解できている。 ・1970年代前半の経済危機への対応の1つがサミットであったことを理解できている。 ・第2次石油危機をイラン情勢との関係から理解できている。	・資料や図版などから、第1次石油危機と中東戦争の関係について考察し、表現できている。	・1970年代の経済危機の概要と西側諸国の対応について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	8 日本の経済大国化		59	・貿易黒字の増大が省エネや技術革新によるものであったことを理解できている。 ・貿易摩擦の意味を理解できている。 ・製造業が衰退する一方、IT産業が勃興したことを理解できている。	・資料や図版などから、日本が経済大国化する過程や貿易摩擦の発生について考察し、表現できている。	・日本の経済大国化の過程とそれにとまなう対外関係の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	日本の政府開発援助	60	・日本の政府開発援助の歴史や支援の内容について理解できている。 ・民間の援助も政府によるODAと同じく重要な役割を果たしていることを理解できている。	・資料や図版などから、日本のODAの課題を考察し、表現できている。	・日本の対外援助の特徴や課題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	9 アジアの経済成長		61	・アジアの経済成長には地域的な偏りがあることを理解できている。 ・NIESやASEANの概要について理解できている。 ・南北問題と南南問題の違いを理解できている。	・資料や図版などから、アジアの経済成長について考察し、表現できている。	・アジアの経済成長の特徴や問題点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	10 社会主義の停滞と新自由主義		62	・社会主義停滞の原因には経済だけでなく政治的な抑圧もあったことを理解できている。 ・社会主義的な国家運営への疑問が西側諸国における新自由主義の台頭につながったことを理解できている。 ・新自由主義に立脚した政策を国ごとに理解できている。	・資料や図版などから、社会主義停滞の原因について考察し、表現できている。	・社会主義の停滞と新自由主義の対等の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	11 冷戦の終結		63	・ベレストロイカの概要や東欧革命の経過を理解できている。 ・冷戦の終結とソ連の解体との関係を理解できている。 ・東アジアで社会主義体制が維持された理由を理解できている。	・資料や図版などから、冷戦の終結について考察し、表現できている。	・冷戦の終結とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	12 冷戦後の地域紛争		64	・冷戦終結後の地域紛争について地域ごとの具体的な事例とあわせて理解できている。 ・地域紛争解決のために国際連合や日本の果たす役割について理解できている。	・資料や図版などから、冷戦終結後の地域紛争の背景を考察し、表現できている。	・冷戦終結後の地域紛争解決のために必要なことについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

	考えてみよう！	国連平和維持活動	65	・国連平和維持活動の概要や国際連合憲章の「6章半」の意味を理解できている。	・資料や図版などから、日本のPKO活動について考察し、表現できている。	・国連平和維持活動のあり方について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	13 地域統合		66	・EU結成に至るヨーロッパ統合の過程を理解できている。 ・ASEANの性格が変化したことを理解できている。	・資料や図版などから、現代の地域連合の特徴について考察し、表現できている。 ・イギリスのEU脱退の理由について考察し、表現できている。	・地域統合の進展と役割について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	14 現代世界の諸課題		67	・現代社会の諸課題を分野ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。 ・多文化主義や少数者の権利確保の動きが誕生した背景を理解できている。	・資料や図版などから、現代社会の諸課題や深刻な状況を考察し、表現できている。	・現代社会の諸課題の解決に向けて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	15 日本の諸課題		68	・55年体制崩壊後の政界再編の概要について理解できている。 ・バブル景気崩壊後の不況によって生じた諸問題について理解できている。 ・現代の日本が抱える諸課題を分野ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、現在の日本が抱える諸課題を解決する方向性を考え、表現できている。	・現代の日本が抱える諸課題の解決に向けて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	学年末試験		69				
	いまの私たちにつながる課題	対立・協調／開発・保全	70	①対立・協調の観点から、平和や国際理解のために懸命に尽くした人々に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わるグローバル化の歴史を理解できている。 ②開発・保全の観点から、地球環境問題に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わるグローバル化の歴史を理解できている。	①対立・協調の観点から、平和や国際理解のために尽くした人々の行動などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ②開発・保全の観点から、地球環境問題に対する現代の取組みに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	①対立・協調について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、1年間の学習をまとめようとしている。 ②開発・保全について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、1年間の学習をまとめようとしている。	グループ協議・発表・リアクションペーパー

令和5年度 歴史総合 シラバス

教科：地理歴史科 履修学年：2年生(理数探究科) 教科書：「わたしたちの歴史 日本から世界へ」山川出版社
科目：歴史総合 単位数：2単位 副教材：「わたしたちの歴史 日本から世界へ ノート」山川出版社
副読本：「新詳 歴史総合」浜島書店

1. 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

2. 科目全体の評価の観点（指導要領の目標）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3. 年間指導計画例

部	章	節	授業 時数	評価の規準			評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
巻頭資料 歴史の舞台		東アジア	－	・東アジアの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・農耕民と遊牧民の関係のなかで中国の歴史が展開してきたことを理解できている。	・漢字・儒教・仏教を受容した東アジア諸地域の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら東アジア諸地域の特色を確認し、共通点と相違点について分析しようとしている。 ・日本の歴史と東アジアの関係を追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		南アジア・東南アジア		・インドの歴史を諸宗教と関連付けて理解できている。 ・東南アジアの風土と多様性を理解できている。	・東南アジアで海上交易が盛んにおこなわれた背景やその結果について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら南アジア・東南アジアの歴史を風土や諸宗教と関連付けて分析しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		西アジア		・西アジアの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・メソポタミアやエジプトに誕生した古代文明の特色を理解できている。 ・イスラーム教の成立と広がりについて理解できている。	・ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教という3つの一神教の共通点と相違点について考察し、表現できている。 ・イスラーム教の特徴について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながら西アジアで高度な文明が成立したことや、3つの一神教が誕生したこと、現代に与えた影響について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		ヨーロッパ		・ヨーロッパの風土と現在の諸地域の概要を理解できている。 ・現代の主権国家体制がヨーロッパで成立したことを理解できている。	・ヨーロッパの歴史とキリスト教徒の関連について考察し、表現できている。 ・ヨーロッパの対外進出と世界の一体化の関連について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらヨーロッパの歴史とキリスト教との関係について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		アメリカ大陸		・アメリカ大陸の地域区分と諸地域の概要を理解できている。 ・アメリカ大陸に成立した古代文明の概要を理解できている。	・ヨーロッパの進出と現代のアメリカ大陸諸地域との関係について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらアメリカ大陸の歴史について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）
		アフリカ大陸		・アフリカ大陸の風土と前近代の諸地域の概要を理解できている。	・アフリカ大陸の植民地化と現代の諸問題との関係について考察し、表現できている。	・地図や図版を活用しながらアフリカ大陸の歴史について追究しようとしている。	リアクションペーパーレポート（歴史の舞台）

歴史の扉		1 歴史と私たち 学校の歴史	1	・「学校の歴史」を題材に私たちの生活や身近な地域などにみられる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解できている。 ・「広がり」を考える際には、空間的な広がりや階層的な広がりを考えることが大切であることを理解できている。	・諸資料や図版などから適切に情報を読み取り、公教育の始まりや学校の役割を判断できている。 ・「学校の歴史」を題材に近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現できている。	・身近な題材に対して自ら「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。	グループ協議・発表・ リアクションペーパー
		2 歴史と資料 学校給食の歴史	2	・「学校給食の歴史」を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読み取りと吟味が重要であることを理解できている。	・資料や図版などから適切に情報を読み取り、時期や立場による書かれ方の違いなどを判断できている。 ・「学校給食の歴史」を題材に複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを整理し、表現できている。	・資料から読み取ったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。 ・資料を読み取る際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。	グループ協議・発表・ リアクションペーパー
	近代化への問い		3 4	・資料を利用して、交通の発達や貿易の拡大が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、産業発達と人口増加の関連が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、身分を問わずに権利を有することや義務を課すことが近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、学校教育の均質化・一般化が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、産業革命による労働の変化と家族のあり方の変化が近代化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、移民の増加が近代化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、交通の発達や貿易の拡大が近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、産業革命前後に発生した産業と人口の変化の関係性について考察し、表現できている。 ・諸資料から、日本で19世紀におこなわれた、身分を問わずに義務を課そうとする動きや、同様に身分を問わずに権利を獲得しようとする動きの関係性について考察し、表現できている。 ・諸資料から、学校教育の均質化・一般化が近代化に与えた影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、産業革命によって労働環境・家族形態が変化する理由について考察し、表現できている。 ・諸資料から、近代において移民が増大した理由について考察し、表現できている。	・交通の発達や貿易の拡大について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・産業の発達や人口の増加について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・権利と義務の関係性について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・学校教育の均質化・一般化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・産業革命にともなう労働や家族の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・近代における移民増加の背景について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	1 18世紀の世界とアジア		5	・アジア産の世界商品がヨーロッパでどのように扱われていたかを理解できている。 ・大西洋三角貿易の構造を理解できている。 ・「鎖国」体制の形成過程を理解できている。	・18世紀のヨーロッパ人の中国観について資料をもとに考察し、表現できている。 ・貿易統制と産業発達の関係や全国市場の形成について考察し、表現できている。	・18世紀のアジアと日本の概況やヨーロッパとの関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	考えてみよう！	琉球と蝦夷地	6	・琉球王国と蝦夷地が半ば独立した存在であったことを理解できている。 ・蝦夷地とアイヌの歴史・文化について理解できている。	・資料や図版などから、琉球王国が海上交易で繁栄していた理由や海上交易が琉球王国に与えた影響について考察し、表現できている。	・琉球と蝦夷地が日本に組み込まれていく歴史について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	2 産業革命		7	・産業革命がイギリスで始まったことを理解できている。 ・労働運動が発生する背景や労働者の要求を理解できている。	・資料や図版などから、産業革命による技術革新の連鎖や世界の結びつきの変化について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、工業化や都市化がもたらした問題や民衆の反応について考察し、表現できている。	・産業革命の過程と社会問題の発生について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	3 アヘン戦争と日本		8	・イギリスの三角貿易について理解できている。 ・アヘン戦争後、欧米諸国による東アジア進出が進んだことを理解できている。	・資料や図版などから、外国船出沒の理由について考察し、表現できている。 ・江戸幕府が対外政策を変化させた理由について考察し、表現できている。	・アヘン戦争の経緯とこれが日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

第 I 部 近 代 化 と 私 た ち	4 日本の開国		9	・ペリー来航の背景とそれに対する江戸幕府の対応を理解できている。 ・開国から通商開始に至る経緯を理解できている。 ・洋学の発達を具体例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、江戸幕府が開国だけでなく通商も開始した理由やこの時期に結んだ諸条約の特徴について考察し、表現できている。	・ペリー来航から通商開始に至る歴史について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	考えてみよう！	江戸時代	10	・江戸時代の統治の特徴を理解できている。 ・江戸時代における経済発展の経緯を理解できている。	・資料や図版などから、ペリー来航後の近代化の進展と江戸時代の経済発展の関連性について考察し、表現できている。	・江戸時代の特徴を多角的にとらえることについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	I 学期中間試験		11				
	5 日本開国期の国際情勢		12	・「西洋の衝撃」に対するアジア諸地域の反応について理解できている。 ・列強が非欧米世界へ進出する一方で、たがいに対立することもあったことを理解できている。	・資料や図版などから、太平天国の蜂起・第2次アヘン戦争を経て中国の政策がどのように変化したかということについて考察し、表現できている。 ・日本が開国後も比較的安定した対外関係を維持できた理由について考察し、表現できている。	・開国期の国際情勢が日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	6 開国後の日本社会		13	・開港後の社会混乱について理解できている。 ・開港前後の時期に將軍後継者問題など国内の政治混乱があったことを理解できている。	・資料や図版などから、開港が社会に与えた影響について考察し、表現できている。 ・対外貿易と倒幕運動の関係について考察し、表現できている。	・開港と倒幕運動の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	7 市民革命と国民統合		14	・自然法思想や社会契約説の概要について理解できている。 ・アメリカ独立やフランス革命の概要と両者の関係を理解できている。 ・「自由」「平等」という概念が近代自然法の思想から生まれたことを理解できている。	・資料や図版などから、自然法思想・社会契約説と市民革命の関係について考察し、表現できている。 ・ナポレオンの征服活動が被征服地に与えた影響について考察し、表現できている。	・市民革命と国民統合の関連性について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	考えてみよう！	国民国家と多民族国家	15	・主権国家や国民国家の特徴を理解できている。 ・日本における国民国家形成の過程について理解できている。	・資料や図版などから、主権国家・国民国家の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・国民国家と多民族国家の特徴について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	8 明治維新		16	・大政奉還から王政復古の号令を経て戊辰戦争がおこった過程を理解できている。	・大政奉還をおこなった徳川慶喜の思惑とこれに対する倒幕派の反応について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、明治政府の政策の新しい面とかわらなかった面について考察し、表現できている。	・明治維新の意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	9 富国強兵と文明開化		17	・徴兵令・地租改正・殖産興業の概要について理解できている。 ・文明開化の具体的な内容を理解できている。	・資料や図版などから、文明開化による変化について考察し、表現できている。	・富国強兵や文明開化が日本に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

10 日本の明治初期の外交		18	・不平等条約の解消が大きな課題であったことを理解できている。 ・近隣諸国との外交を具体的な事例にもとづいて理解できている。	・資料や図版などから、明治初期の外交の特徴について考察し、表現できている。	・明治初期の外交と日本の領域が画定したことについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
11 大日本帝国憲法の制定		19	・自由民権運動の展開について理解できている。 ・大日本帝国憲法の制定過程や憲法の内容を理解できている。	・資料や図版などから、自由民権運動が始まった背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大日本帝国憲法の特徴について考察し、表現できている。	・自由民権運動の展開と大日本帝国憲法制定の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
12 日本の産業革命と日清戦争		20	・明治期の日本で進展した産業革命の概要を理解できている。 ・日清戦争の原因と結果を理解できている。	・資料や図版などから、産業革命による生産様式の変化や貿易への影響について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日清戦争の原因や当時の国際関係について考察し、表現できている。	・日本における産業革命の進展や日清戦争の経過について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
13 帝国主義		21	・第2次産業革命の進展には植民地や勢力圏獲得が必要であったことを理解できている。 ・帝国主義時代のおもな分割対象がアフリカと太平洋海域であったことを理解できている。 ・列強の中国進出とこれに対する中国側の反応を理解できている。	・資料や図版などから、帝国主義時代の世界分割の特徴や現代の諸問題との関連について考察し、表現できている。 ・列強間における国際関係の再編がおよぼした影響について考察し、表現できている。	・帝国主義時代の世界分割と国際関係の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
14 日露戦争と韓国併合		22	・日露戦争の一因に韓国をめぐる日本とロシアの対立があったことを理解できている。 ・日露戦争の経過とポーツマス条約の内容について理解できている。 ・不平等条約改正の過程について理解できている。	・資料や図版などから、20世紀初頭の東アジアをめぐる情勢について考察し、表現できている。 ・日露戦争での勝利が、列強支配下にあったアジア諸民族に与えた影響について考察し、表現できている。	・日露戦争とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
I 学期期末試験		23				
いまの私たちにつながる課題	自由・制限／対立・協調	24	・自由・制限の観点から、貿易に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解できている。 ・対立・協調の観点から、ペリー来航後の国内対立、超然内閣をめぐる対立、対ロシア政策をめぐる対立に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解できている。	・自由・制限の観点から、貿易政策をめぐる国際間ないしは国内での意見の相違に着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ・対立・協調の観点から、ペリー来航、帝国議会の運営、対ロシア政策でそれぞれの勢力が描いた政治構想を比較して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	・自由・制限について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりを見出そうとしている。 ・対立・協調について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
国際秩序の変化や大衆化への問い	①国際関係の緊密化 ②アメリカ合衆国とソ連の台頭 ③植民地の独立 ④大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化 ⑤生活様式の変化	25 26	・資料を利用して、生産力の向上や科学技術の発達による戦争の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、アメリカ合衆国とソ連の台頭が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後の植民地問題への取組みが国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後の政治・経済・社会の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、第一次世界大戦後におきた生活様式の変化が国際秩序の変化や大衆化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、生産力の向上や科学技術の発達戦争に与えた影響について考察できている。 ・諸資料から、アメリカ合衆国とソ連の工業生産の増加について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の植民地独立の特徴について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の世界各地でおこった大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化について考察できている。 ・諸資料から、第一次世界大戦後の生活様式の変化とその影響について考察できている。	・19世紀後半から20世紀にかけての国際関係の緊密化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・アメリカ合衆国とソ連の台頭が国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後における植民地の独立について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後の世界各地における大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・第一次世界大戦後に世界各地で進んだ生活様式の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価

1 大衆運動の芽ばえ	27	・日露戦争後に日米関係が悪化した背景の1つとして日本の東アジア進出があったことを理解できている。 ・第1次ロシア革命や日比谷焼打ち事件を大衆運動の表れとして理解できている。 ・第1次護憲運動に始まる大正デモクラシーの概要を理解できている。	・資料や図版などから、日本の東アジア進出に対する列強の反応について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大衆運動と大正デモクラシーの関係について考察し、表現できている。	・大衆運動の展開と社会の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
2 第一次世界大戦	28	・第一次世界大戦開戦直前の国際関係を理解できている。 ・第一次世界大戦の経過を具体的な事件とあわせて理解できている。 ・「総力戦」の内容を理解できている。	・資料や図版などから、第一次世界大戦に至る国際関係について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、「総力戦」の意味と第一次世界大戦が総力戦となった要因を考察し、表現できている。	・第一次世界大戦の概要や性格について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
3 第一次世界大戦と日本	29	・日英同盟が参戦の口実となったことや二十一条の要求のねらいについて理解できている。 ・大戦景気、戦後恐慌の特徴について理解できている。	・資料や図版などから、日本が参戦する理由について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、大戦景気から戦後恐慌に転じた要因について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦と日本の関連について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
4 ロシア革命とその影響	30	・社会主義の誕生と工業化の関係について理解できている。 ・ロシア革命の経過とソ連の成立について理解できている。 ・ロシア革命の影響で世界各地に共産党が結成されたことを理解できている。	・資料や図版などから、ロシア革命がおきた背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、ロシア革命の影響について考察し、表現できている。	・ロシア革命とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
5 社会運動の広がり	31	・人々の権利意識の高まりが参政権の拡大につながったことを理解できている。 ・日本国内の多様な社会運動の展開について、具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、米騒動のおきた背景や広がりについて考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日本の社会運動の多様性について考察し、表現できている。	・権利意識の高まりと社会運動の広がりについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
6 国際協調	32	・ヴェルサイユ体制とワシントン体制の特徴を主導した国々の動向とあわせて理解できている。 ・ヴェルサイユ体制下でドイツの復興が一定程度進んだことを理解できている。 ・日本の国際協調について具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、ヴェルサイユ体制がドイツに与えた影響について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦後における国際協調の広がりについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	7 アジアの民族運動		33	・アジア諸地域の民族運動の特徴を地域ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。 ・アジア諸地域における民族運動に対する列強の対応を具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、第一次世界大戦後のアジア諸地域における民族運動の広がりについて考察し、表現できている。 ・イギリスの多重外交の問題点と現代に与えた影響について考察し、表現できている。	・第一次世界大戦後におけるアジア諸地域の民族運動やその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	8 大量生産・大量消費社会		34	・アメリカ合衆国に始まる大量生産・大量消費社会の特徴を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・日本における都市化の影響を具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、大量生産・大量消費社会の抱える負の側面について考察し、表現できている。	・大量生産・大量消費社会の特徴やこれがもたらした影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	大衆文化としてのスポーツ、野球	35	・「ベースボール」が「野球」として根付いていった過程について理解できている。 ・昭和時代に野球以外のスポーツが発展したことやその背景を理解できている。	・資料や図版などから、大衆文化として野球をはじめとするスポーツが成長したことについて考察し、表現できている。	・大衆文化としてのスポーツの意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	大衆文化としての映画	36	・フランスで発明された映画が世界各地に広がっていく過程を理解できている。 ・第一次世界大戦期からアメリカで映画産業が発展したことについて具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、アメリカにおける映画産業の発達について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、プロパガンダとして利用される映画の特徴について考察し、表現できている。	・大衆文化としての映画の意義について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	9 世界恐慌		37	・世界恐慌がアメリカ合衆国から始まったことを理解できている。 ・世界恐慌に対する各国の経済政策を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・日本は1920年代の慢性的な不況のなかで世界恐慌の影響を受けたことを理解できている。	・資料や図版などから、世界恐慌の深刻さや各国の対応について考察し、表現できている。	・世界恐慌と各国の対応について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	2 学期中間試験		38			
	10 独裁勢力の台頭		39	・ファシズム体制が成立した国とこの体制の特徴を理解できている。 ・スターリン支配下のソ連も独裁体制にあったことを理解できている。	・資料や図版などから、ファシズム体制が成立した背景や人々の支持を得た要因について考察し、表現できている。 ・ファシズム体制の特徴とスターリン支配下のソ連の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・ファシズムに代表される独裁体制が台頭した原因やその後の経緯について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	11 日本のアジア侵出		40	・中国の統一が国民党を中心に進められたことを理解できている。 ・日本は統一の過程だけでなく統一後の中国に対しても様々な干渉を加えたことを具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、中国統一に対する日本の干渉やその影響を考察し、表現できている。 ・日本において軍部が台頭した背景について考察し、表現できている。	・中国統一の進行と日本のアジア侵出の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	12 第二次世界大戦		41	・ナチ党政権下のドイツが進めた領土拡大がヨーロッパの国際関係を不安定なものにしたことを理解できている。 ・ドイツが占領地やユダヤ人、スラヴ系の人々に対しておこなったことを理解できている。	・資料や図版などから、第二次世界大戦に向かう国際関係の特徴やドイツの行動について考察し、表現できている。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦の共通点と相違点について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦の特徴と戦争の経過について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	13 第二次世界大戦と日本		42	・日本の中国侵出がアメリカ・イギリスとの対立を深め、太平洋戦争が勃発したことを理解できている。 ・日本政府や軍部が戦争に関する不都合な情報を隠していたことを理解できている。	・資料や図版などから、日本が太平洋戦争を始めた理由について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、「大東亜共栄圏」の理念と実際の占領政策との違いを考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、日本政府や軍部の情報統制と国民生活について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦と日本の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価

14 第二次世界大戦の終結		43	・連合国が戦争終結までに開催した会談の概要について理解できている。 ・ドイツとイタリアが敗戦に至る過程を理解できている。 ・日本が敗戦に至る過程を理解できている。	・資料や図版などから、第二次世界大戦による被害や犠牲について考察し、表現できている。	・第二次世界大戦の終結過程について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
15 戦後国際秩序		44	・第二次世界大戦後の国際秩序の特徴について理解できている。 ・敗戦国における戦後処理の特徴を地域ごとに理解できている。	・資料や図版などから、国際連盟と国際連合の共通点と相違点について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、敗戦国における戦後処理の違いについて考察し、表現できている。	・戦後国際秩序の特徴や問題点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
16 冷戦の始まり		45	・第二次世界大戦後のヨーロッパで、社会主義への共感が生まれていたことを理解できている。 ・ヨーロッパにおける冷戦の推移を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・冷戦がアジアの国家建設に与えた影響を具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、ヨーロッパにおける冷戦の推移と東西両陣営の対応について考察し、表現できている。	・冷戦の開始が同時代の国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
17 日本の戦後改革と日本国憲法		46	・日本には間接統治が適用されていたことを理解できている。 ・戦後改革の内容を具体的な事例とあわせて理解できている。 ・日本国憲法の特徴について三原則をもとに理解できている。	・資料や図版などから、戦後改革の目的と成果について考察し、表現できている。 ・大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点について考察し、表現できている。	・日本の戦後改革の内容と日本国憲法制定について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
18 日本の独立		47	・占領政策が経済的自立と政治の安定を優先させるように転換されたことを理解できている。 ・サンフランシスコ平和条約の締結と同時に日米安全保障条約が結ばれたことを理解できている。	・資料や図版などから、朝鮮戦争と日本の独立との関係について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、サンフランシスコ平和条約や独立後の日本の課題について考察し、表現できている。	・日本の独立に至る経緯と独立後の課題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
いまの私たちにつながる課題	統合・分化／平等・格差	48	①統合・分化の観点から、クルド人に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できている。 ②平等・格差の観点から、女性の諸権利獲得運動にみられる格差と平等の実現に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できている。	①統合・分化の観点から、クルド人の歴史や民族運動などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ②平等・格差の観点から、女性の諸権利獲得運動にみられる男女の格差と平等の実現の過程、およびそれぞれの運動の内容に着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	①統合・分化について、クルド人の歴史や民族運動を考察し、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 ②平等・格差について、女性の諸権利獲得運動を考察し、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、つぎの学習へのつながりや課題を見出そうとしている。
2 学期期末試験		49			

	グローバル化への問い	①冷戦と国際関係 ②人と資本の移動 ③高度情報通信 ④食料と人口 ⑤資源・エネルギーと地球環境 ⑥感染症 ⑦多様な人々の共存	50 51	・資料を利用して、核兵器の拡散がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、人と資本の移動がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用し、ICT技術の発達と普及がグローバル化の重要な側面であると理解できている。 ・資料を利用して、世界人口の増加と食料生産のバランスがグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、国境をこえた環境問題がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、人々の移動の活発化と感染症の拡大がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。 ・資料を利用して、パレスチナやカナダのケベック州における共存に向けた取り組みや問題点がグローバル化の重要な側面であることを理解できている。	・諸資料から、核兵器の拡散と冷戦の関係について考察し、表現できている。 ・諸資料から、人や資本の移動の影響について考察し、表現できている。 ・諸資料から、情報通信技術の発達と普及について考察し、表現できている。 ・諸資料から、世界の人口の伸びと食料生産の問題について考察し、表現できている。 ・諸資料から、ヨーロッパにおける酸性雨の拡大や解決の方策について考察し、表現できている。 ・諸資料から、グローバル化と感染症の関係について考察し、表現できている。 ・諸資料から、多様な人々の共生と衝突について考察し、表現できている。	・今日に至るまでの核開発競争について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・人や資本の移動とグローバル化の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・情報通信技術の発達と普及について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・飢餓の現状や国際社会の取り組みなどの世界の人口問題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・SDGsとも関連させながら、資源・エネルギー源の拡大と地球環境の両立について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・2020年のコロナウィルスの世界的流行とグローバル化された社会における感染症の蔓延について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・多様な人々が共存する社会の発展について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やベアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	1 第三世界の登場		52	・アジア諸地域の独立過程を地域ごとに理解できている。 ・独立の過程で印パ紛争やパレスチナ問題など現在まで続く問題も生じたことを理解できている。 ・非同盟主義の概要について理解できている。	・資料や図版などから、欧米による植民地支配がアジア諸地域にもたらした影響を考察し、表現できている。 ・アジア・アフリカ諸国が第三世界として連帯した背景について考察し、表現できている。	・第三世界の登場と国際的な影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	定期試験における知識問題と資料読み取りなどの応用問題・グループ協議やベアワークによる意見交換および発表・リアクションペーパー・レポートなどを総合的に評価
	2 冷戦の固定化と「雪どけ」		53	・冷戦構造の拡大と核軍備拡大競争の過程を理解できている。 ・反核兵器運動の概要について理解できている。 ・ラテンアメリカと冷戦の関係を理解できている。	・資料や図版などから、「雪どけ」が東西両陣営に与えた影響を考察し、表現できている。	・冷戦の拡大と固定化が同時代の国際社会に与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	3 冷戦の展開		54	・スターリン批判に触発されてハンガリー事件がおきたことを理解できている。 ・ソ連の政策転換に反発した中国では、文化大革命によって毛沢東が権力を握ったことを理解できている。 ・スエズ戦争が他の中東戦争とは違う性格を有することを理解できている。	・資料や図版などから、キューバ危機のおきた原因とこれが国際社会に与えた影響について考察し、表現できている。	・冷戦の展開と世界各地の動向について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	4 55年体制と安保闘争		55	・保守対立や「逆コース」の概要を理解できている。 ・55年体制の内容と意義を理解できている。 ・日本が国際社会に復帰する過程を理解できている。	・55年体制が成立する背景について考察し、表現できている。 ・資料や図版などから、安保闘争が高揚した原因について考察し、表現できている。	・保守勢力と革新勢力の対立点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	5 高度経済成長の光と影		56	・高度経済成長の過程を理解できている。 ・高度経済成長の負の側面として地域間格差や生活環境の悪化の問題が生じたことを理解できている。	・資料や図版などから、高度経済成長による人々の生活や意識の変化について考察し、表現できている。	・高度経済成長の光と影について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	

第3部 グローバル化と私たち	6 ベトナム戦争とアメリカ		57	・ベトナム戦争の特徴と戦争の経過を理解できている。 ・アメリカ国内の公民権運動がベトナム戦争と連動していたことを理解できている。 ・アメリカの対東アジア政策の転換が米中接近や沖縄返還をもたらしたことを理解できている。	・資料や図版などから、ベトナム戦争が北側の勝利に終わった背景について考察し、表現できている。	・ベトナム戦争がアメリカに与えた影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	7 経済構造の変化		58	・ドル＝ショックの概要と国際経済に与えた影響を理解できている。 ・1970年代前半の経済危機への対応の1つがサミットであったことを理解できている。 ・第2次石油危機をイラン情勢との関係から理解できている。	・資料や図版などから、第1次石油危機と中東戦争の関係について考察し、表現できている。	・1970年代の経済危機の概要と西側諸国の対応について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	8 日本の経済大国化		59	・貿易黒字の増大が省エネや技術革新によるものであったことを理解できている。 ・貿易摩擦の意味を理解できている。 ・製造業が衰退する一方、IT産業が勃興したことを理解できている。	・資料や図版などから、日本が経済大国化する過程や貿易摩擦の発生について考察し、表現できている。	・日本の経済大国化の過程とそれにもなう対外関係の変化について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	考えてみよう！	日本の政府開発援助	60	・日本の政府開発援助の歴史や支援の内容について理解できている。 ・民間の援助も政府によるODAと同じく重要な役割を果たしていることを理解できている。	・資料や図版などから、日本のODAの課題を考察し、表現できている。	・日本の対外援助の特徴や課題について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	9 アジアの経済成長		61	・アジアの経済成長には地域的な偏りがあることを理解できている。 ・NIESやASEANの概要について理解できている。 ・南北問題と南南問題の違いを理解できている。	・資料や図版などから、アジアの経済成長について考察し、表現できている。	・アジアの経済成長の特徴や問題点について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	10 社会主義の停滞と新自由主義		62	・社会主義停滞の原因には経済だけでなく政治的な抑圧もあったことを理解できている。 ・社会主義的な国家運営への疑問が西側諸国における新自由主義の台頭につながったことを理解できている。 ・新自由主義に立脚した政策を国ごとに理解できている。	・資料や図版などから、社会主義停滞の原因について考察し、表現できている。	・社会主義の停滞と新自由主義の対等の関係について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	11 冷戦の終結		63	・ベレストロイカの概要や東欧革命の経過を理解できている。 ・冷戦の終結とソ連の解体との関係を理解できている。 ・東アジアで社会主義体制が維持された理由を理解できている。	・資料や図版などから、冷戦の終結について考察し、表現できている。	・冷戦の終結とその影響について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	12 冷戦後の地域紛争		64	・冷戦終結後の地域紛争について地域ごとの具体的な事例とあわせて理解できている。 ・地域紛争解決のために国際連合や日本の果たす役割について理解できている。	・資料や図版などから、冷戦終結後の地域紛争の背景を考察し、表現できている。	・冷戦終結後の地域紛争解決のために必要なことについて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

	考えてみよう！	国連平和維持活動	65	・国連平和維持活動の概要や国際連合憲章の「6章半」の意味を理解できている。	・資料や図版などから、日本のPKO活動について考察し、表現できている。	・国連平和維持活動のあり方について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	13 地域統合		66	・EU結成に至るヨーロッパ統合の過程を理解できている。 ・ASEANの性格が変化したことを理解できている。	・資料や図版などから、現代の地域連合の特徴について考察し、表現できている。 ・イギリスのEU脱退の理由について考察し、表現できている。	・地域統合の進展と役割について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	14 現代世界の諸課題		67	・現代社会の諸課題を分野ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。 ・多文化主義や少数者の権利確保の動きが誕生した背景を理解できている。	・資料や図版などから、現代社会の諸課題や深刻な状況を考察し、表現できている。	・現代社会の諸課題の解決に向けて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	15 日本の諸課題		68	・55年体制崩壊後の政界再編の概要について理解できている。 ・バブル景気崩壊後の不況によって生じた諸問題について理解できている。 ・現代の日本が抱える諸課題を分野ごとに具体的な事例とあわせて理解できている。	・資料や図版などから、現在の日本が抱える諸課題を解決する方向性を考え、表現できている。	・現代の日本が抱える諸課題の解決に向けて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
	学年末試験		69				
	いまの私たちにつながる課題	対立・協調／開発・保全	70	①対立・協調の観点から、平和や国際理解のために懸命に尽くした人々に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わるグローバル化の歴史を理解できている。 ②開発・保全の観点から、地球環境問題に関する諸資料をもとに情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わるグローバル化の歴史を理解できている。	①対立・協調の観点から、平和や国際理解のために尽くした人々の行動などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。 ②開発・保全の観点から、地球環境問題に対する現代の取組みに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現できている。	①対立・協調について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、1年間の学習をまとめようとしている。 ②開発・保全について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、1年間の学習をまとめようとしている。	グループ協議・発表・リアクションペーパー

令和5年度 日本史Bシラバス

教科 地理歴史 科目 日本史B 履修学年 3学年(3年普通科文系)

単位数 4単位 使用教科書 山川出版社 詳説日本史B
副教材 浜島書店 新詳日本史

教科目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

原始・古代から現代に至る歴史の展開を、同じ地理歴史科の世界史や地理との関連を一層重視して、国内外の地理的条件やアジアを含む世界史的視野に立ち、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で大きく把握させる。と同時に、各時代の国家・社会の特色や時代の変遷に関わる総合的な考察を通じて、我が国の文化がどのような特色をもち、どのような伝統が形成されてきたかについての認識を深めることを重視している。その際、諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力の育成を図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことがこの科目の最終的なねらいである。

学習内容

- 1 「原始・古代の日本と東アジア」では、旧石器時代から平安時代までを扱い、原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史と資料」では、歴史が諸資料に基づいて考察され、叙述されていることとの理解を図ると同時に、歴史への関心を高め、文化財保護の重要性に気付かせる。
- 2 「中世の日本と東アジア」では、中世国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史の解釈」では、諸資料を活用して、歴史的な事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通じて、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる。
- 3 「近世の日本と世界」では、近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。なお、この大項目における「歴史の説明」では、歴史的な事象には複数の歴史的解釈が成り立つことに気付かせ、それぞれの根拠や論理を踏まえて、筋道立てて考えを説明させる。
- 4 「近代日本の形成と世界」では、近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。
- 5 「両世界大戦期の日本と世界」では、近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。
- 6 「現代の日本と世界」では、現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。なお、この大項目における「歴史の論述」では、社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活について、適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、考えを論述する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。

学習方法

教科目標に「諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察」とあり、資料活用の観点と合わせて、同じ地理歴史科の世界史・地理との関連も重視されている。世界史との関連付けにおいては、各時代における我が国と諸外国との政治的、経済的、文化的な接触・交流が、我が国の歴史と文化の展開にどのような作用を及ぼしたかを考察する必要があるし、地理との関連づけにおいては、歴史上の出来事の舞台となった諸地域について地図帳や地形図の活用を図りながら学習させるなど、多面的・多角的に考察することが求められている。また、地域の文化遺産や、博物館・資料館の調査・見学などを取り入れることで、教室外という空間的広がりや、高校での学習以降も我が国の歴史に触れる時間的な広がりを持たせることも可能である。

「特定の時代の特色」については、他の時代の特色と比較・考察して、その共通点・相違点を明らかにし、その要因や背景を突き詰めていく学習が求められている。

歴史的思考力を育成する技能的内容項目として、「歴史と資料」は冒頭に、「歴史の解釈」は中世の通史的内容と、「歴史の説明」は近世の通史的内容と関わらせ、「歴史の論述」は科目のまとめとして実施することとなっている。これらの技能的内容項目は特別な学習時間を設けるのではなく、通史的内容の学習の中で、こうした技能の育成を段階的に進めていくという点に留意する必要がある。

評価方法について

◇平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し、尚かつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断する。

◇授業への取り組む姿勢は、授業態度、プリント提出、発表の状況などを評価の対象とする。

◇課題やレポートなどの提出物では、提出期日や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とする。

学期	月	時数	学習内容	評価の観点				評価基準
				関	思	技	知	
I 学期	4 月	1 時間	歴史へのアプローチ ○歴史と資料 大仏造立 ＊諸資料に基づいて、大仏造立の経緯が明らかになり、教科書の叙述が成り立っていることに気付く。	○	○	○	○	○大仏造立についての叙述が文献史料・発掘調査で出土した金属遺物や文字資料、地域の伝承などから成り立っていることを理解できたか。
I 学期	4 月	2 時間	第I部 原始・古代 第I章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり ＊人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ＊打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。	○	○			○日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。 ○黒曜石などの考古資料を提示し、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて考察できたか。
I 学期	4 月	3 時間	2. 農耕社会の成立 ＊大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ＊集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて考察する。 3. 古墳とヤマト政権 ＊地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	○	○			○水稻耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を弥生土器や発掘された農具から考察できたか。 ○小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、文献資料に基づき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できたか。 古墳の形状や大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察できたか。

I 学 期	4 月	3 時 間	*ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 *古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。		○		○	○古墳の形状や大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察できたか。 ○中国及び高句麗・新羅・百済など朝鮮半島の情勢との関連、大陸文化の受容を踏まえ、ヤマト政権の成立についてとらえることができたか。
I 学 期	4 月	2 時 間	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 *ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。		○	○	○	○血縁関係の推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の形成について大陸との交流を踏まえて考察できたか。
I 学 期	4 月	4 時 間	2. 律令国家への道 *律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 *律令に基づく国内統治体制について理解する。 3. 平城京の時代 *律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 *平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。		○		○	○天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程と白鳳文化の形成過程を考察できたか。 ○大宝律令に基づく、統治組織・官僚制・土地と民衆の把握・税制について理解できたか。 ○平城京における大宝律令・養老律令による律令体制が整備について、遣唐使の派遣なども踏まえて考察できたか。 ○藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる公地公民制の崩れなど土地制度の変容を関連づけて考察できたか。

I 学 期	5 月	2 時 間	4. 天平文化 ＊天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。			○	○	○盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できたか。
I 学 期	5 月	3 時 間	5. 平安王朝の形成 ＊平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ＊東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。 [中間考査] [プリント提出]		○	○	○	○蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察できたか。 ○真言宗・天台宗などに着目して、唐文化を受容し、密教芸術が生まれた弘仁・貞観文化の意義を理解できたか。
I 学 期	5 月	2 時 間	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 ＊藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。		○		○	○藤原北家が権力を掌握していく過程を理解し、律令体制の変容の観点から摂関政治を考察できたか。
I 学 期	5 月	4 時 間	2. 国風文化 ＊大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。 3. 地方政治の展開と武士 ＊律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ＊地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。			○	○	○国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立等の貴族の生活・文化を理解できたか。 ○文献資料を活用し、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察する。 ○武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができたか

I 学 期	6 月	3 時 間	第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 ＊院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ＊政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。			○	○	○延久の荘園整理令により荘園公領制が明確化されたことを踏まえて、院政の政治構造や経済・社会・文化を理解できたか。 ○外戚関係や日宋貿易の展開など平氏政権の特性を考察することを通して、武家政権の成立過程を把握できたか。
I 学 期	6 月	3 時 間	2. 鎌倉幕府の成立 ＊鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。		○		○	○源平争乱から幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などに着目することができたか。
I 学 期	6 月	3 時 間	3. 武士の社会 ＊承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。 ＊武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	○	○		○	○公武関係の変化の背景として、武家政権の変容を見ることができたか。 ○絵画資料を読解し、武士の生活や土地支配をめぐる地頭と荘園領主との紛争などについて考察できたか。
I 学 期	6 月	2 時 間	4. 蒙古襲来と幕府の衰退 ＊蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。				○	○文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できたか。
I 学 期	6 月	2 時 間	5. 鎌倉文化 ＊庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 [期末考査] [プリント提出]		○	○	○	○鎌倉仏教の多様な動きの社会的・思想的意義やその影響について考察できたか。 この時代の文学・絵巻物・彫刻の特徴に着目できたか。

I 学 期	6 月	4 時 間	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 ＊南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ＊琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。		○		○	○鎌倉幕府の滅亡、建武政権の成立と崩壊を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構の確立について理解できたか。 ○日明貿易・日朝貿易の展開、琉球やアイヌの動向に着目できたか。
I 学 期	7 月	3 時 間	2. 幕府の衰退と庶民の台頭 ＊庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ＊諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	○	○		○	○惣村の形成や土一揆の発生など庶民による自治的な組織の成立に着目して、幕府の動揺や衰退を考察できたか。 ○流通経済の進展による農業・商工業の発達を踏まえて庶民が台頭する姿をとらえられたか。
I 学 期	7 月	2 時 間	3. 室町文化 ＊武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 ＊庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。	○	○	○	○	○南北朝・北山・東山文化を通じて、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ理解できたか。 ○今日までつながる庶民文芸の流行、公家の地方下向による中央と地方の文化的交流の活発化を踏まえて、現代につながる地域文化の特色についても考察できたか。
I 学 期	7 月	2 時 間	4. 戦国大名の登場 ＊応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。		○		○	○富国強兵策を推進して、領国統治を強化した戦国大名、堺や博多など都市の発展を踏まえて、戦国期の日本の多様性を考察できたか。

1 学 期	7 月	1 時 間	歴史へのアプローチ ○歴史の解釈 兵庫北関入船納帳 ＊商品名・数量・関銭額が羅列された帳面(『兵庫北関入船納帳』)を基に、この帳面の作成意図と、記載された大量の物資が流通していた背景を考察する。	○	○	○	○	○資料から必要な情報を適切に読み取れたか。 ○情報や既習知識を組み合わせ、因果関係を考察できたか。 ○歴史の展開における意味や意義を解釈できたか。
2 学 期	9 月	4 時 間	第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 ＊大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ＊織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考察する。	○	○	○	○	○鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか。 ○幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できたか。
2 学 期	9 月	2 時 間	2. 桃山文化 ＊新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。		○	○	○	○桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着目して考察できたか。
2 学 期	9 月	5 時 間	3. 幕藩体制の成立 ＊江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を考察する。 ＊江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではなく、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 4. 幕藩社会の構造 ＊幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。	○	○	○	○	○幕藩体制の特質について、幕府と藩・朝廷・寺社との関係を踏まえて考察できたか。 ○初期外交から鎖国までの過程について、東アジアの動向と関連させて考察できたか。 ○幕藩体制下の支配体制、封建的身分秩序の形成、経済的基盤などを踏まえて考察できたか。

2 学 期	9 月	2 時 間	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 *17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。		○		○	○文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を考察できたか。
2 学 期	10 月	3 時 間	2. 経済の発展 *幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。		○		○	○農業技術の進歩に伴う農業生産の進展、産業の発達と多様化、三都の発達に見える都市の経済的繁栄に着目して、諸産業の展開を考察できたか。
2 学 期	10 月	2 時 間	3. 元禄文化 *経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。			○	○	○元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。
2 学 期	10 月	3 時 間	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 *農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 [中間考查] [プリント提出]	○	○		○	○幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。
2 学 期	10 月	4 時 間	2. 宝暦・天明期の文化 *江戸中期に確立した洋学や国学、新たな形で展開する文学・芸能・美術について、社会の変容に伴う幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 3. 幕府の衰退と近代への道 *欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。		○	○	○	○社会の変容に着目して、この時期の学問の確立、各地に設立された教育機関の展開をとらえられたか。 ○列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革を踏まえて、幕府の衰退をみることができたか。

2 学 期	10 月	2 時 間	＊近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	○	○		○	○マニファクチュアなど近代の萌芽がみられ、諸藩の財政再建から軍事産業確立に至る雄藩の出現過程を考察できたか。
2 学 期	10 月	2 時 間	4. 化政文化 ＊化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。		○	○	○	○幕藩体制に批判的な学問・思想の起こり、寺子屋など庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えを考察できたか。
2 学 期	11 月	3 時 間	第Ⅳ部 近代・現代 第Ⅸ章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 ＊国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ＊幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する 2. 明治維新と富国強兵 ＊明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 ＊欧米の文化・思想の導入と一連の近代化政策に対する反動としての士族反乱・農民一揆の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。		○	○	○	○日米和親条約・修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できたか。 ○公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できたか。 ○藩置県・徴兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 ○近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことを理解できたか。また、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察できたか

2 学 期	11 月	5 時 間	＊明治初期の対外政策について、欧米への対応と、アジアに対する外交政策の違いについて考察する。	○	○		○	○近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことを理解できたか。また、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察できたか。 ○国境画定を含む明治初期の外交政策について、多面的・多角的にとらえることができたか。
2 学 期	11 月	11 時 間	3. 立憲国家の成立と日清戦争 ＊政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ＊東アジアをめぐる国際環境が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について考察する。 4. 日露戦争と国際関係 ＊開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。 ＊立憲体制成立後から桂園時代にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の対立と協力の視点から考察する。 [期末考査][プリント提出]	○	○		○	○国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察できたか。また戦前の立憲制のしくみを理解できたか。 ○条約改正が、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。 ○英露対立を背景とした日露戦争が国家の総力を結集して戦われた点を考察できたか。また、日本の勝利がアジア諸国の近代化運動を刺激した点や近隣諸国へ与えた影響なども考察できたか。 ○立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。

2 学 期	12 月	3 時 間	5. 近代産業の発展 ＊日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。 ＊近代産業の発展に伴う社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。	○	○	○	○殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、寄生地主制の成立等を考察できたか。 ○劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、社会運動への政府の対応に着目できたか。
2 学 期	12 月	2 時 間	6. 近代文化の発達 ＊伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。	○	○	○	○国家主義的な思想の形成、実証的学問研究の風潮、科学技術の導入、教育の普及・拡充に着目して、文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。
2 学 期	12 月	2 時 間	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 ＊第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。	○	○	○	○第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、国内外に及ぼした影響について考察できたか。
2 学 期	12 月	2 時 間	＊第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などに関連させて考察する。	○	○	○	○大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。
2 学 期	12 月	2 時 間	2. ワシントン体制 ＊ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。	○	○	○	○ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できたか。

3 学 期	1 月	1 時 間	＊民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。		○		○	○労働争議・小作争議・女性解放運動・部落解放運動・社会主義運動など様々な社会運動が起こってきた背景に着目できたか。
3 学 期	1 月	1 時 間	3. 市民生活の変容と大衆文化 ＊労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。	○	○		○	○学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。
3 学 期	1 月	3 時 間	4. 恐慌の時代 ＊戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ＊社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。		○		○	○戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、世界恐慌との関連を含めて理解できたか。 ○山東出兵や統帥権干犯問題など軍の政治的進出を背景に積極外交転換への過程を考察できたか。
3 学 期	1 月	3 時 間	5. 軍部の台頭 ＊日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。 ＊恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。		○		○	○満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。 ○管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭を踏まえ、軍部の政治関与が増大した過程を考察できたか。
3 学 期	1 月	4 時 間	6. 第二次世界大戦 ＊日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。		○	○	○	○中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済など、様々な角度から考察できたか。

3 学 期	2 月	1 時 間	＊冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、独立回復後の日本の動きを考察する。		○	○	○	○日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解できたか。
3 学 期	2 月	2 時 間	2．経済復興から高度成長へ ＊朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などに着目して考察する。 ＊消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。	○	○		○	○特需景気の影響を踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。 ○耐久消費財の普及による豊かさの享受、流通網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも注目したか。
3 学 期	3 月	3 時 間	2．冷戦終結と日本社会の動揺 ＊冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる ＊科学技術・産業の発達によって派生する環境・エネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	○	○		○	○冷戦終結後、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況を考察できたか。 ○原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革など理解することができたか。

令和5年度 日本史Bシラバス

教科 地理歴史 科目 日本史B 履修学年 3学年(3年普通科理系)

単位数 3単位 使用教科書 山川出版社 詳説日本史B
副教材 浜島書店 新詳日本史

教科目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

原始・古代から現代に至る歴史の展開を、同じ地理歴史科の世界史や地理との関連を一層重視して、国内外の地理的条件やアジアを含む世界史的視野に立ち、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で大きく把握させる。と同時に、各時代の国家・社会の特色や時代の変遷に関わる総合的な考察を通じて、我が国の文化がどのような特色をもち、どのような伝統が形成されてきたかについての認識を深めることを重視している。その際、諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力の育成を図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことがこの科目の最終的なねらいである。

学習内容

- 1 「原始・古代の日本と東アジア」では、旧石器時代から平安時代までを扱い、原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史と資料」では、歴史が諸資料に基づいて考察され、叙述されていることとの理解を図ると同時に、歴史への関心を高め、文化財保護の重要性に気付かせる。
- 2 「中世の日本と東アジア」では、中世国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史の解釈」では、諸資料を活用して、歴史的な事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通じて、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる。
- 3 「近世の日本と世界」では、近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。なお、この大項目における「歴史の説明」では、歴史的な事象には複数の歴史的解釈が成り立つことに気付かせ、それぞれの根拠や論理を踏まえて、筋道立てて考えを説明させる。
- 4 「近代日本の形成と世界」では、近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。
- 5 「両世界大戦期の日本と世界」では、近代国家の展開と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。
- 6 「現代の日本と世界」では、現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。なお、この大項目における「歴史の論述」では、社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活について、適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、考えを論述する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。

学習方法

教科目標に「諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察」とあり、資料活用の観点と合わせて、同じ地理歴史科の世界史・地理との関連も重視されている。世界史との関連付けにおいては、各時代における我が国と諸外国との政治的、経済的、文化的な接触・交流が、我が国の歴史と文化の展開にどのような作用を及ぼしたかを考察する必要があるし、地理との関連づけにおいては、歴史上の出来事の舞台となった諸地域について地図帳や地形図の活用を図りながら学習させるなど、多面的・多角的に考察することが求められている。また、地域の文化遺産や、博物館・資料館の調査・見学などを取り入れることで、教室外という空間的広がりや、高校での学習以降も我が国の歴史に触れる時間的な広がりを持たせることも可能である。

「特定の時代の特色」については、他の時代の特色と比較・考察して、その共通点・相違点を明らかにし、その要因や背景を突き詰めていく学習が求められている。

歴史的思考力を育成する技能的内容項目として、「歴史と資料」は冒頭に、「歴史の解釈」は中世の通史的内容と、「歴史の説明」は近世の通史的内容と関わらせ、「歴史の論述」は科目のまとめとして実施することとなっている。これらの技能的内容項目は特別な学習時間を設けるのではなく、通史的内容の学習の中で、こうした技能の育成を段階的に進めていくという点に留意する必要がある。

評価方法について

◇平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し、尚かつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断する。

◇授業への取り組む姿勢は、授業態度、プリント提出、発表の状況などを評価の対象とする。

◇課題やレポートなどの提出物では、提出期日や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とする。

学期	月	時数	学習内容	評価の観点				評価基準
				関	思	技	知	
I 学期	4 月	1 時間	歴史へのアプローチ ○歴史と資料 大仏造立 ＊諸資料に基づいて、大仏造立の経緯が明らかになり、教科書の叙述が成り立っていることに気付く。	○	○	○	○	○大仏造立についての叙述が文献史料・発掘調査で出土した金属遺物や文字資料、地域の伝承などから成り立っていることを理解できたか。
I 学期	4 月	2 時間	第I部 原始・古代 第I章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり ＊人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ＊打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。	○	○			○日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。 ○黒曜石などの考古資料を提示し、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて考察できたか。
I 学期	4 月	3 時間	2. 農耕社会の成立 ＊大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ＊集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて考察する。 3. 古墳とヤマト政権 ＊地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	○	○			○水稻耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を弥生土器や発掘された農具から考察できたか。 ○小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、文献資料に基づき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できたか。 古墳の形状や大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察できたか。

I 学 期	4 月	3 時 間	*ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 *古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。		○		○	○古墳の形状や大きさの変化、石室など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察できたか。 ○中国及び高句麗・新羅・百済など朝鮮半島の情勢との関連、大陸文化の受容を踏まえ、ヤマト政権の成立についてとらえることができたか。
I 学 期	4 月	2 時 間	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 *ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。		○	○	○	○血縁関係の推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の形成について大陸との交流を踏まえて考察できたか。
I 学 期	4 月	4 時 間	2. 律令国家への道 *律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 *律令に基づく国内統治体制について理解する。 3. 平城京の時代 *律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 *平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。		○		○	○天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程と白鳳文化の形成過程を考察できたか。 ○大宝律令に基づく、統治組織・官僚制・土地と民衆の把握・税制について理解できたか。 ○平城京における大宝律令・養老律令による律令体制が整備について、遣唐使の派遣なども踏まえて考察できたか。 ○藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる公地公民制の崩れなど土地制度の変容を関連づけて考察できたか。

I 学 期	5 月	2 時 間	4. 天平文化 ＊天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。			○	○	○盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できたか。
I 学 期	5 月	3 時 間	5. 平安王朝の形成 ＊平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ＊東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。 [中間考査] [プリント提出]		○	○	○	○蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察できたか。 ○真言宗・天台宗などに着目して、唐文化を受容し、密教芸術が生まれた弘仁・貞観文化の意義を理解できたか。
I 学 期	5 月	2 時 間	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 ＊藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。		○		○	○藤原北家が権力を掌握していく過程を理解し、律令体制の変容の観点から摂関政治を考察できたか。
I 学 期	5 月	4 時 間	2. 国風文化 ＊大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。 3. 地方政治の展開と武士 ＊律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ＊地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。			○	○	○国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立等の貴族の生活・文化を理解できたか。 ○文献資料を活用し、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察する。 ○武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができたか

I 学 期	6 月	3 時 間	第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 *院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 *政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。			○	○	○延久の荘園整理令により荘園公領制が明確化されたことを踏まえて、院政の政治構造や経済・社会・文化を理解できたか。 ○外戚関係や日宋貿易の展開など平氏政権の特性を考察することを通して、武家政権の成立過程を把握できたか。
I 学 期	6 月	3 時 間	2. 鎌倉幕府の成立 *鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。		○		○	○源平争乱から幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などに着目することができたか。
I 学 期	6 月	3 時 間	3. 武士の社会 *承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。 *武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	○	○		○	○公武関係の変化の背景として、武家政権の変容を見ることができたか。 ○絵画資料を読解し、武士の生活や土地支配をめぐる地頭と荘園領主との紛争などについて考察できたか。
I 学 期	6 月	2 時 間	4. 蒙古襲来と幕府の衰退 *蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。				○	○文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できたか。
I 学 期	6 月	2 時 間	5. 鎌倉文化 *庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 [期末考査] [プリント提出]		○	○	○	○鎌倉仏教の多様な動きの社会的・思想的意義やその影響について考察できたか。 この時代の文学・絵巻物・彫刻の特徴に着目できたか。

I 学 期	6 月	4 時 間	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 ＊南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ＊琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。		○		○	○鎌倉幕府の滅亡、建武政権の成立と崩壊を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構の確立について理解できたか。 ○日明貿易・日朝貿易の展開、琉球やアイヌの動向に着目できたか。
I 学 期	7 月	3 時 間	2. 幕府の衰退と庶民の台頭 ＊庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ＊諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	○	○		○	○惣村の形成や土一揆の発生など庶民による自治的な組織の成立に着目して、幕府の動揺や衰退を考察できたか。 ○流通経済の進展による農業・商工業の発達を踏まえて庶民が台頭する姿をとらえられたか。
I 学 期	7 月	2 時 間	3. 室町文化 ＊武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 ＊庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。	○	○	○	○	○南北朝・北山・東山文化を通じて、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ理解できたか。 ○今日までつながる庶民文芸の流行、公家の地方下向による中央と地方の文化的交流の活発化を踏まえて、現代につながる地域文化の特色についても考察できたか。
I 学 期	7 月	2 時 間	4. 戦国大名の登場 ＊応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。		○		○	○富国強兵策を推進して、領国統治を強化した戦国大名、堺や博多など都市の発展を踏まえて、戦国期の日本の多様性を考察できたか。

1 学 期	7 月	1 時 間	歴史へのアプローチ ○歴史の解釈 兵庫北関入船納帳 ＊商品名・数量・関銭額が羅列された帳面(『兵庫北関入船納帳』)を基に、この帳面の作成意図と、記載された大量の物資が流通していた背景を考察する。	○	○	○	○	○資料から必要な情報を適切に読み取れたか。 ○情報や既習知識を組み合わせ、因果関係を考察できたか。 ○歴史の展開における意味や意義を解釈できたか。
2 学 期	9 月	4 時 間	第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 ＊大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ＊織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考察する。	○	○	○	○	○鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか。 ○幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できたか。
2 学 期	9 月	2 時 間	2. 桃山文化 ＊新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。		○	○	○	○桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着目して考察できたか。
2 学 期	9 月	5 時 間	3. 幕藩体制の成立 ＊江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を考察する。 ＊江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではなく、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 4. 幕藩社会の構造 ＊幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。	○	○	○	○	○幕藩体制の特質について、幕府と藩・朝廷・寺社との関係を踏まえて考察できたか。 ○初期外交から鎖国までの過程について、東アジアの動向と関連させて考察できたか。 ○幕藩体制下の支配体制、封建的身分秩序の形成、経済的基盤などを踏まえて考察できたか。

2 学 期	9 月	2 時 間	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 *17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。		○		○	○文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を考察できたか。
2 学 期	10 月	3 時 間	2. 経済の発展 *幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。		○		○	○農業技術の進歩に伴う農業生産の進展、産業の発達と多様化、三都の発達に見える都市の経済的繁栄に着目して、諸産業の展開を考察できたか。
2 学 期	10 月	2 時 間	3. 元禄文化 *経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。			○	○	○元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など経済の発展や、儒学などに着目して、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。
2 学 期	10 月	3 時 間	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 *農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 [中間考查][プリント提出]	○	○		○	○幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察できたか。
2 学 期	10 月	4 時 間	2. 宝暦・天明期の文化 *江戸中期に確立した洋学や国学、新たな形で展開する文学・芸能・美術について、社会の変容に伴う幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 3. 幕府の衰退と近代への道 *欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。		○	○	○	○社会の変容に着目して、この時期の学問の確立、各地に設立された教育機関の展開をとらえられたか。 ○列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革を踏まえて、幕府の衰退をみる事ができたか。

2 学 期	10 月	2 時 間	＊近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	○	○		○	○マニファクトリアなど近代の萌芽がみられ、諸藩の財政再建から軍事産業確立に至る雄藩の出現過程を考察できたか。
2 学 期	10 月	2 時 間	4. 化政文化 ＊化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。		○	○	○	○幕藩体制に批判的な学問・思想の起こり、寺子屋など庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えを考察できたか。
2 学 期	11 月	3 時 間	第Ⅳ部 近代・現代 第Ⅸ章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 ＊国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ＊幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する 2. 明治維新と富国強兵 ＊明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 ＊欧米の文化・思想の導入と一連の近代化政策に対する反動としての士族反乱・農民一揆の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。		○	○	○	○日米和親条約・修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できたか。 ○公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できたか。 ○藩置県・徴兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 ○近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことを理解できたか。また、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察できたか

2 学 期	11 月	5 時 間	＊明治初期の対外政策について、欧米への対応と、アジアに対する外交政策の違いについて考察する。	○	○		○	○近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことを理解できたか。また、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察できたか。 ○国境画定を含む明治初期の外交政策について、多面的・多角的にとらえることができたか。
2 学 期	11 月	11 時 間	3. 立憲国家の成立と日清戦争 ＊政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ＊東アジアをめぐる国際環境が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について考察する。 4. 日露戦争と国際関係 ＊開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。 ＊立憲体制成立後から桂園時代にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の対立と協力の視点から考察する。 [期末考査][プリント提出]		○		○	○国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察できたか。また戦前の立憲制のしくみを理解できたか。 ○条約改正が、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できたか。また、朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できたか。 ○英露対立を背景とした日露戦争が国家の総力を結集して戦われた点を考察できたか。また、日本の勝利がアジア諸国の近代化運動を刺激した点や近隣諸国へ与えた影響なども考察できたか。 ○立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。

2 学 期	12 月	3 時 間	5. 近代産業の発展 ＊日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。 ＊近代産業の発展に伴う社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。	○	○	○	○殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、寄生地主制の成立等を考察できたか。 ○劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、社会運動への政府の対応に着目できたか。
2 学 期	12 月	2 時 間	6. 近代文化の発達 ＊伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。	○	○	○	○国家主義的な思想の形成、実証的学問研究の風潮、科学技術の導入、教育の普及・拡充に着目して、文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。
2 学 期	12 月	2 時 間	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 ＊第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。	○	○	○	○第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、国内外に及ぼした影響について考察できたか。
2 学 期	12 月	2 時 間	＊第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などに関連させて考察する。	○	○	○	○大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。
2 学 期	12 月	2 時 間	2. ワシントン体制 ＊ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。	○	○	○	○ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できたか。

3 学 期	1 月	1 時 間	＊民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。		○		○	○労働争議・小作争議・女性解放運動・部落解放運動・社会主義運動など様々な社会運動が起こってきた背景に着目できたか。
3 学 期	1 月	1 時 間	3. 市民生活の変容と大衆文化 ＊労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。	○	○		○	○学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。
3 学 期	1 月	3 時 間	4. 恐慌の時代 ＊戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ＊社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。		○		○	○戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、世界恐慌との関連を含めて理解できたか。 ○山東出兵や統帥権干犯問題など軍の政治的進出を背景に積極外交転換への過程を考察できたか。
3 学 期	1 月	3 時 間	5. 軍部の台頭 ＊日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。 ＊恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。		○		○	○満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。 ○管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭を踏まえ、軍部の政治関与が増大した過程を考察できたか。
3 学 期	1 月	4 時 間	6. 第二次世界大戦 ＊日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。		○	○	○	○中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済など、様々な角度から考察できたか。

3 学 期	1 月	1 時 間	＊第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	○	○		○	○連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことに着目できたか。
3 学 期	1 月	3 時 間	第11章 占領下の日本 1. 占領と改革 ＊戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する。 ＊戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。 [学年末考查] [プリント提出]	○	○			○GHQによる諸政策が、対日占領政策に基づき実施されたことに気付けたか。 ○主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を考察できたか。
3 学 期	2 月	2 時 間	2. 冷戦の開始と講和 ＊東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。 ＊連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。		○		○	○中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に伴う占領政策の転換として、経済面では経済安定九原則、政治面では警察予備隊の新設に着目して考察できたか。 ○サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できたか。
3 学 期	2 月	2 時 間	第12章 高度成長の時代 1. 55年体制 ＊独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。		○		○	○保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、多面的・多角的に考察できたか。

3 学 期	2 月	1 時 間	＊冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、独立回復後の日本の動きを考察する。		○	○	○	○日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解できたか。
3 学 期	2 月	2 時 間	2．経済復興から高度成長へ ＊朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などに着目して考察する。 ＊消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。	○	○		○	○特需景気の影響を踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できたか。 ○耐久消費財の普及による豊かさの享受、流通網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも注目したか。
3 学 期	3 月	3 時 間	2．冷戦終結と日本社会の動揺 ＊冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる ＊科学技術・産業の発達によって派生する環境・エネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	○	○		○	○冷戦終結後、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況を考察できたか。 ○原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革など理解することができたか。

令和4年度 年間指導計画		学校名	沖縄県立宮古高等学校	科・コース名	普通科・文理探究科	クラス	単位	2	学年	1	留意 事項
		教科名	公民科	科目名	公共	教科書名(会社名)	新公共(第一学習社)				
第1編 第1章の 評価 規 準 B	柱書	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。									
	知識及び技能	(7) 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解すること。 (4) 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解すること。 (9) 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解すること。									
	思考力、判断力、表現力等	(7) 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現すること。									
	学びに向かう力、人間性等	公共的な空間を作る私たちについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決すること。									
第1編 第2章の 評価 規 準 B	柱書	主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。									
	知識及び技能	(7) 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解すること。 (4) 現代の諸課題について自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、(7)に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解すること。 (9) 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。									
	思考力、判断力、表現力等	(7) 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用し、自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現すること。									
	学びに向かう力、人間性等	公共的な空間における人間としての在り方生き方について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決すること。									
第1編 第3章の 評価 規 準 B	柱書	自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。									
	知識及び技能	(7) 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解すること。 (4) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解すること。									
	思考力、判断力、表現力等	(7) 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現すること。									
	学びに向かう力、人間性等	公共的な空間における基本原理について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決すること。									
第2編 第1章の 評価 規 準 B	柱書	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。									
	知識及び技能	(7) 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解すること。									
	思考力、判断力、表現力等	(7) アの(7)から(9)までの事項について、法、政治及び経済などの側面に関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現すること。									
	学びに向かう力、人間性等	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するために、法的な主体となる私たちについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決すること。									
評価の表記について		学習改善(指導)に生かす評価(●)は毎時間行うものであり、よってここでは表記しない。(学習指導案には記載する) 評定に用いる(記録に残す)評価=○、そのうち、ペーパーテストで見取る評価=◎として記載する。TRS=単元リフレクションシート、WS=ワークシート									

学期	月	大項目	中項目	単元名	F・Q (単元を貫く問い)	小単元名と考查の位置づけ	MQ (本時の問い)	評価の観点			時数	単元（内容のまとまり）ごとの評価規準（B評価の生徒の姿）
		編	章	節				知	思	態		
一学期の評価	4			第1章 公共的な空間をつくる私たち		オリエンテーション					1	
						1. 社会に生きる私たち	「公共的な空間」と「私」はどのように関わっているのだろうか？	○ノード・ワークシート	○ノード・ワークシート・スタサブ	◎ノード・ワークシート・スタサブ	1	【知識・技能】 ○自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ○人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 ○自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ○社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○公共的な空間を作る私たちについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
						2. 個人の尊厳と自主・自律					2	
						3. 多様性と共通性						
						4. 伝統文化とのかかわり						
	5. 自立した主体をめざして	あなたが目指したい自立した主体とは？	1									
	5	第1編 公共の扉		第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	公共的な空間における「自立」とは何だろうか？	1. 人間と社会のあり方についての見方・考え方	どうすれば公正な選択・判断ができるだろう？	○テスト	○ノード	◎ノード・スタサブ	1	【知識・技能】 ○選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ○現代の諸課題について自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、幸福、正義、公正などの考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解すること。 ○人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】 ○倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用し、自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○公共的な空間における人間としての在り方生き方について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
						◇実社会の例から考える～環境保護						
						◇実社会の例から考える～生命倫理						
6	第2編 自立した主体となる私たち社会の形成に参画	第1章 法的な主体となる私たち	法や規範の意義と役割	社会の秩序はどのように形成されているか？	1. 私たちと法	ルールを決めるときに必要な事は？	◎テスト	○ノード・TRS	◎ノード・スタサブ	1	【知識・技能】 ○法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解すること。 【思考力・判断力・表現力】 ○幸福、正義、公正などに着目して、主として法に関わる事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するために、法的な主体となる私たちについて、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
					2. 法と基本的人権	基本的人権と法律はどのような関係にある？				1		
					3. 自由に生きる権利と法・規範	自由権はどこまで保障されている？				1		
					4. 平等に生きる権利と法・規範	社会にはどのような差別があるのだろうか？				1		
					5. 安全で豊かに生きる権利と法・規範	誰もが豊かに生きるためにできる事は何か？				1		
	6	第1章 法的な主体となる私たち	契約と消費者の権利・責任	幸福・正義・公正を実現するために私たちができることは？	1. さまざまな契約と法	自立した消費者になるため私たちがすべきことは何？	◎ノード・TRS	○ノード・スタサブ	◎ノード・スタサブ	2		
					2. 消費者の権利と責任							
					1. 裁判所と司法	あなたが裁判員に選ばれたとき、大切にしたいことは何？				1		
					2. 国民の司法参加							
【1学期期末考查】												

令和5年度 世界史A シラバス

教科名：地理歴史	科目名（単位数）：世界史A（2単位）
教科書：「明解 世界史A」帝国書院	
副読本：「明解世界史図説エスカリエ」帝国書院	
学習の到達目標 近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	
学年：3 学年 普通科 理数科	

月	単 元 名（時 数）	学習の目標(ねらい)および内容	評価の観点			
			関心 意欲	思考 判断	技能	知識 理解
4月	世界史へのいざない	1 自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる適切な主題を設定し、考察することで地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気づかせる。	◎	○	◎	△
	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産を基礎にして、人類が文明を築き、歴史時代へはいつていくありさまを地域ごとに概観し、各地域世界が形づくられていく過程を理解する。	◎	○	△	○
	1節 東アジアの文明	2 東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制などを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	◎	○	△	◎
5月	2節 南アジアの文明	1 南アジアの風土と諸民族、カースト制、仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響などを通して、南アジアの文明の特質を理解する。	◎	○	△	◎
	3節 東南アジア	自然環境や地理的位置に着目し、インドと中国のはざまにあるため、両文明の影響を受けながら、それぞれの地域で多様な社会・文化を築いていった東南アジアの特質を理解する。	◎	○	△	◎
	4節 西アジア・北アフリカの文明	3 西アジア・北アフリカの風土と諸民族、オリエント文明・イラン文明の伝統にふれ、基層となる西アジアの特徴を把握し、イスラームの成立と拡大・分裂などを通して、西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。	◎	○	△	◎
	5節 ヨーロッパの文明	ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教の発展、封建社会などを通して、ヨーロッパの文明の特質を理解する。	◎	○	△	◎
	6節 南北アメリカの文明	1 南北アメリカ大陸の風土と先住民にふれ、ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。	◎	○	△	◎
6月	7節 ユーラシアの交流圏	ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域間の交流が進み、ユーラシア規模の交流圏が成立していくようすを交易品などの事例を通して巨視的かつ視覚的に把握し、相互の文化受容の進展について理解する。	◎	○	△	◎
	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	5 アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会にふれ、この時期に安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	◎	○	△	◎

7月	2節 大航海時代と新たな国家の形成	5	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓などにふれ、16世紀頃から始まった世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	◎	○	△	◎
9月	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	7	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命、拡大する貿易活動などを通して、西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し、市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	◎	○	△	◎
10月	2節 自由主義・ナショナリズムの進展	6	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会を通して、自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。	◎	○	△	◎
11月	3節 アジア諸国の動揺	4	オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊などを通して、世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の動揺のようすを理解する。	◎	○	△	◎
	4節 東アジアの大変動	4	アヘン戦争やアロー戦争などの西洋の衝撃により、冊封＝朝貢体制に基づく東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中での日本の対応など、東アジアの大変動を理解する。	◎	○	△	◎
12月	2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽ばえと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成	3	交通革命、マス＝メディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを通して、20世紀という時代の特徴を把握するとともに、欧米諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合と人口移動から、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	◎	○	△	◎
	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	6	第一次世界大戦と総力戦としての様相、ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立、戦争と革命による国際秩序の変化、アメリカの大衆生活とその波及を通して、20世紀初頭の変化の様相を理解する。	◎	○	△	◎
1月	3節 “民族自決”を求めて	2	インド・中東および東アジアの民族運動を通して、“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。	◎	○	△	◎
	4節 経済危機から第二次世界大戦へ	5	第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察する。2部1章2節とあわせて20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特徴を理解する。	◎	○	△	◎
2月	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代	6	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。	◎	○	△	◎
	2節 冷戦終結への道のり	3	1970年代以降は市場経済の世界化をはじめ、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。	◎	○	△	◎
	3節 地球社会への歩み	4	冷戦終結後の世界の政治・経済の動向について理解するとともに、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの国際社会における日本の役割について考察する。	◎	○	△	◎

令和5年度 政治・経済 シラバス

沖縄県立宮古高等学校

教科	学年	科目名（単位数）	教科書・副読本
公民	2年 国際 探究科	政治・経済 (2単位)	「高等学校 政治・経済」 第一学習社
			「最新 政治・経済資料集2023」 第一学習社
			「政治・経済ノート」 第一学習社

1. 学習目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を解決に向けて広い視野に立ち、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指す。

2. 評価の観点

①知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようとしている。
②思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かおうとしている。
③主体的に学びに向かう態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとするとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国民主権を担う公民として、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとしている。

3. 年間学習計画

学期	月	編	章・節	内容	評価の観点		
					知	思	態
			オリエンテーション				
			第 1 章 現代日本の政治・経済				
	4 月		第 1 節	①政治と法の意義と機能	○	◎	○
				②法の支配と立憲主義	◎	○	○
				③基本的人権の保障と日本国憲法	○	◎	○
				④現代社会における新しい人権	○	○	◎
		⑤権利と義務との関係		○	◎	○	

一学期	5月
	6月
	7月
	9月

第1編 現代日本の政治・経済の諸課題

日本国憲法と現代政治のあり方	⑥議会制民主主義と世界の政治体制	◎	○	○
	⑦国会の組織と立法	◎	○	○
	⑧内閣の機構と行政	◎	○	○
	⑨裁判所の機能と司法制度	◎	○	○
	◆諸課題へのアプローチ「現代政治のあり方」	○	○	◎
第2節 望ましい政治のあり方 と主権者としての政治 参加のあり方	①地方自治制度と住民の権利	○	◎	○
	②政党政治と選挙	○	○	◎
	◆諸課題へのアプローチ「主権者としての政治参加のあり方」	○	○	◎
第3節 市場経済の機能と限界	①経済活動と市場	◎	○	○
	②経済主体と経済循環	◎	○	○
	③国民経済の大きさと経済成長	◎	○	○
	④物価と景気変動	◎	○	○
	⑤市場の失敗と公害・消費者問題	○	○	◎
	◆諸課題へのアプローチ「外部不経済の内部化の方法」	○	◎	○
第4節 持続可能な財政および 租税のあり方	①財政のしくみと租税の意義	○	◎	○
	◆諸課題へのアプローチ「持続可能な財政を実現するための税制のあり方」	○	○	◎
第5節 金融を通じた経済活動 の活性化	①金融のしくみとはたらき	◎	○	○
	◆諸課題へのアプローチ「資金の流れと起業における資金調達のあり方」	○	◎	○

二 学 期	1 0 月	第 6 節	①日本経済の変化と中小企業・農業問題	◎	○	○
		経済活動と福祉の向上	②労使関係と労働問題	○	◎	○
			③社会保障制度と福祉のあり方	◎	○	○
			◆諸課題へのアプローチ「格差の理由とその対策」	○	○	◎
		第 2 章 現代日本の諸課題の探究				
	1 1 月	[選択] 探究する課題を選択し、適切かつ十分な授業時数を配当する。	1 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化	◎	○	○
			2 地域社会の自立と政府	○	◎	○
			3 多様な働き方・生き方を可能にする社会	○	○	◎
			4 産業構造の変化と起業	◎	○	○
			5 歳入・歳出両面での財政健全化	◎	○	○
			6 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現	○	◎	○
			7 防災と安全・安心な社会の実現	○	○	◎
		第 1 章 現代の国際政治・経済				
	1 1 5 1 2 月	第 1 節	①国際社会の変遷	◎	○	○
		国際法の果たす役割	②国際法の意義	◎	○	○
			③国際機構の役割	○	◎	○
			④国際紛争と軍縮への取り組み	○	◎	○
			◆諸課題へのアプローチ「国際法の役割と課題」	○	○	◎

三 学 期	1 月	第 2 編 グ ロ ー バ ル 化 す る 国 際 社 会 の 諸 課 題	第 2 節	①日本の安全保障と国際貢献	○	◎	○	
			国際平和と人類の福祉に 寄与する日本の役割	◆諸課題へのアプローチ「日本の国際貢献のあり方」	○	○	◎	
			第 3 節	①貿易の現状と意義	◎	○	○	
			相互依存関係が深まる国 際経済の特質	②国民経済と国際収支	◎	○	○	
	③為替相場の変動			◎	○	○		
	④国際協調と国際経済機関の役割			◎	○	○		
	◆諸課題へのアプローチ「国際経済の現状と課題」			○	◎	○		
	第 4 節			①国際経済における日本の地位と国際協力	○	◎	○	
	国際経済において求め られる日本の役割		◆諸課題へのアプローチ「国際経済の安定と成長に向 けた日本の役割」	○	○	◎		
	第 2 章 国際社会の諸課題の探究							
	2 月 3 月		[選択] 探究する課題を選択し、適切かつ十分な授 業時数を配当する。	1 グローバル化にともなう人々の生活や社会の変容	○	◎	○	
				2 地球環境と資源・エネルギー問題	○	○	◎	
				3 国際経済格差の是正と国際協力	○	◎	○	
				4 イノベーションと成長市場	◎	○	○	
				5 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会 の取り組み	○	◎	○	
				6 持続可能な国際社会づくり	○	○	◎	

5. 評価の方法及び評価資料

日々の授業態度や「政治・経済ノート」等の取り組み状況、小テスト、長期休業中の課題、スタディサブリペアまたはグループによる協働学習や発表などをもとに、総合的に判断し評価していきます。

R5 年度 「倫理」 シラバス

科目	倫理	単位	2	学年	2	国際探究科
使用教科書	高等学校 倫理(第一学習社)			副教材等	倫理ノート (第一学習社) 最新倫理資料集 (第一学習社)	

学習の到達目標	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。 ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしている。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題に関連して、学習上の課題を意欲的に追究しようとしたり、他者と共によりよく生きる自己の形成に向けて、多面的・多角的に考察しようとしたりしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
4	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方					
	第1章 人間の心と自己形成					
	1 青年期の課題と自己形成 1. 人間とは何か 2. さまざまな人間の心のあり方 3. 自立して生きる主体の形成	■青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をもとに、様々な人間の心のあり方を理解する。 ・人間の特質とは何かを理解している。 ・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考えている。 ・人間がどのように感じ、学び、考え、行動し、発達するかに関して、心の仕組みと成り立ちを理解している。 ・様々な人間の心のあり方を踏まえて、人間とは何かを思索し、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めている。 ・様々な人間の心のあり方について、科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく統計的な分析の結果を読み取ったり、対話や作文などを通して学習を深めたりしている。	○	○		・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第2章 人間の存在や価値と宗教					
5	1 ギリシアの思想 1. 哲学の形成 2. 哲学の確立 3. ギリシア思想の展開	■古代ギリシアの思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・古代ギリシアに見られる先哲の基本的な考え方が、理性的な人間観に支えられていることを理解している。 ・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察している。 ・「ソクラテスのことば」から、「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取っている。 ・ソクラテスの言行やプラトン、アリストテレスの思想、ヘレニズムの思想から、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
6	2 ユダヤ教とキリスト教 1. ユダヤ教の世界 2. イエス 3. キリスト教の発展	■キリスト教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解している。 ・原罪や恩寵の思想に見られるキリスト教の人間観について、自己の課題と重ね合わせて思索している。 ・イエスの言行やパウロ、古代中世のキリスト教の思想から、人間をどのように捉え、どのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	3 イスラーム 1. イスラーム	■イスラームをもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解している。 ・『クルアーン』について、日常の生活で行うことまで規定していることを読み取れている。 ・メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義(六信・五行)を実感している。 ・ムハンマドの言行などから、社会の中で人間がどのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	4 仏教 1. インドの思想文化 2. 仏教の誕生と展開	■仏教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・インドの人々は、どのような死生観をもっているかを理解している。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解している。 ・日本になじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察している。 ・仏教が人間をどのように捉えているか、どのように生きることを目指しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と重ね合わせて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	5 中国の思想 1. 儒家の思想 2. 儒家以外の諸流派	■儒教などの中国の思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・中国の人々の自然観・人生観を理解している。 ・仁や礼の言説を取り上げ、人間についての見方や、望ましい人間関係を築きながらどのように社会生活を送るかについて、自己の課題と結び付けて思索を深めている。 ・儒教が人間をどのように捉えているか、どのように生きることを目指しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	6 宗教や芸術 1. 宗教や芸術	■人生における宗教や芸術のもつ意義について理解する。 ・人生に関わる課題は、古今東西の宗教や芸術によって探究されてきた課題でもあり、その解決のために宗教や芸術が誕生してきたことを理解している。 ・芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、自らの生き方と関わらせて思索を深めている。 ・芸術家が作品に込めた問いかけなどを、社会背景を踏まえて主体的に考えている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第3章 人間のあり方と社会					
7	1 人間の尊厳 1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. 人間性の探究	■人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解する。 ・ルネサンス期の思想家やモラリストたちの思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを理解している。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考察している。 ・ルネサンス期の絵画などから、ルネサンス期の人間観を、主体的に考えている。	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
9	2 科学革命の時代と自然観 1. 科学革命の時代 2. 経験論と合理論	■人間は自然をどのように捉えてきたかを理解する。 - 近代の科学は、どのような背景から生まれてきたのかを理解している。 - ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観を理解している。 - ベーコンやデカルトの科学的な考え方を踏まえ、科学技術の発達と自然との共生について主体的に考えている。 - 経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて考察している。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	3 自由で平等な社会の実現 1. 社会契約の思想 2. 人格の尊厳と自由 3. 人倫と自由の実現 4. 功利主義の思想 5. 実証主義と進化論	■社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 - 社会契約説は、人間をどのように捉え、どのような社会を理想としたのかを理解している。 - 近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察している。 - 現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解している。 - カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解している。 - 西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察している。 - ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解している。 - 功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげて思索している。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	4 人間性の回復と主体性の確立 1. 社会主義の思想 2. 実存主義の思想 3. ブラグマティズムの思想	■社会の発展に関する思想、公共性に関する思想、ブラグマティズムなどについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 - 社会主義の変遷をもとに、自由で平等な社会について考察している。 - 実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解している。 - 主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察している。 - 略伝や原典資料を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を主体的に学んでいる。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
10	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想					
	1 現代の思想と人間像 1. 心の深層と無意識 2. 生の哲学と現象学 3. フランクフルト学派 4. 構造主義・言語哲学 5. 他者と偏見 6. 正義と社会	■現象学、言語哲学、構造主義などについて、代表的な先哲の思想を通して理解する。 - 生の哲学と現象学、構造主義・言語哲学など、現代思想の特徴を理解している。 - 現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察している。 - ロールズ、センらの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげようとしている。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	2 生命への畏敬と社会参加 1. 生命への畏敬とボランティア	■社会参加と奉仕の意義を理解し、社会参加の中にも生きがいがあることを理解する。 - 実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解している。 - 様々な思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察している。 - 思想家のことばから、生涯をかけて自らの思想を実践した生き方をつかむ。	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚					
	1 日本固有の思想 1. 日本の風土と伝統	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方との関係を理解する。 - 古来の日本人の心情と考え方は、日本の風土で生活する中で育まれたことを理解している。 - 日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方、望ましい対人関係を考察している。 - 古来の日本人の心情と考え方をもとに、国際社会に生きる	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
11		日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。				
	2 外来思想の受容 1. 日本仏教の展開 2. 伝統思想の成熟 3. 日本儒学の展開	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、外来思想の受容との関係を理解する。 - 日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを理解している。 - 法然、親鸞、一遍、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 - 日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をもとに検討する。 - 外来思想の受容をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
	3 町人思想のめざめと 庶民思想 1. 国学の成立 2. 庶民の思想	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、国学や江戸時代の庶民の思想との関係を理解する。 - 義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どういうものかを理解している。 - 義理と人情、儉約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかを考察している。 - 国学の思想と私たちの考え方とで、共通するところ、異なるところ、共感するところなどを考察している。 - 国学や江戸時代の庶民の思想をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について、主体的に考えている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
12	4 西洋思想との出会い 1. 幕末の思想 2. 明治の啓蒙思想 3. 日本社会とキリスト教 4. 近代的自我の確立 5. 社会思想の展開 6. 近代日本の思想課題	■日本人の人間観、自然観、宗教観などと、西洋思想の受容との関係を理解する。 - 幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたのかを理解している。 - 日本の近代思想がどのように展開していったのかを理解している。 - 日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方を考察している。 - 日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について主体的に考えている。	○			- 授業態度 - 発問評価 - 提出課題 - 小テスト - ノート提出 - 定期考査
1	第2編 現代の諸課題と倫理					
	第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理					
	1 生命の問題と倫理課題 1. 生殖医療と遺伝子操作 2. 脳死臓器移植と再生医療 3. 自己決定の尊重と末期医療	■生命との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する。 - 生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義を思索している。 - 探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 - 生命をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - レポート作成 - 発表 - 定期考査
	2 地球環境の問題と倫理的課題 1. 地球環境問題 2. 生物多様性と自然環境 3. 予防原則と世代間倫理	■地球環境との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者対話しながら、現代の諸課題を探究する。 - 人間の生命は自然の生態系の中で植物や他の動物との相互依存関係において維持されており、共存関係が大切であることについて思索している。 - 探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 - 地球環境をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート提出 - レポート作成 - 発表 - 定期考査

月	学習項目	■学習内容(ねらい) ・評価の観点	a	b	c	評価方法
2	3 科学技術の進展と倫理的課題 1. 高度情報通信技術の進展と私たちの生活 2. 先端科学技術の利用と私たちの生活	■科学技術との関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・科学技術の進展を踏まえ、AIをはじめとした先端科学技術の利用と人間生活と社会のあり方について思索している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・科学技術をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理					
	1 福祉の向上と倫理的課題 1. 多様性のある社会 2. さまざまな他者との協働 3. 地域共生社会と家族	■福祉について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・ボランティア体験など福祉に関わる多様な体験をもとに、思索を深めている。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
3	2 文化と宗教の影響と倫理的課題 1. 文化や宗教の理解と現代世界 2. 異文化理解と多文化共生	■文化と宗教について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・異なる文化や宗教をもつ人々を理解し、共生に向けて思索している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・文化や宗教をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	3 国際平和と倫理的課題 1. 持続可能な社会の形成 2. 世界のなかの日本人としての生き方	■国際平和について倫理的課題を見だし、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究する。 ・平和について、人類全体の福祉の向上といった視点からも考察、構想している。 ・探究した結果を、「自分の考えをまとめる」「問題点を話し合う」などの方法で適切に表現している。 ・文化や宗教をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

令和5年度 倫理 普通科 シラバス

単位数	2単位
学 年	3学年 普通科
教科書	「高等学校 改訂版 倫理」第一学習社

I 到達目標

1. 先人たちが長い年月をかけて考えてきた「善く生きるとは」ということに重点を置き、現在の自分のあるべき姿を考え、人間としての生きる道を探求します。
2. 教科書だけでなく、副読本・資料・視聴覚教材を活用して、哲学的、宗教的、道徳的な知識を多角的な視点から学び、自分の在り方・生き方を考えます。

II 学習方法

1. これまでの固定観念を捨て、先人たちの思想・哲学を吸収していくことが大切です。抽象的な表現が多いため、理解することは容易ではないが、教科書を何度も読むことにより理解は深まっていきます。いろいろな視点から物事を考え、真理を追究する姿勢が求められます。
2. 教科書上の知識だけではなく、日常に置いても身近に倫理的問題はたくさんあります。テレビや新聞など社会の問題に興味を持ち、自ら解決する方法を探ること、そして何より一つの物事を深く考えることがとても大切です。

[学校では]

授業では授業プリントを使い、教科書を読みながら進めていきます。単に先生の話の聞いたり、言われたものだけをノートに書いたりするのではなく、疑問に思う点や参考になる語句をメモしてください。目的意識をもって授業を受けましょう。「倫理ノート」は主に復習用で使います。

[家庭では]

授業でわからなかったところを復習し、次の単元の予習をしましょう。授業だけでは大学入試に対応できません。放課後講座の受講や、参考書を購入して自分なりに家庭学習に取り組み、力をつけていくように努力しましょう。

III 副読本

『 倫理ノート 』（学習事項の整理と問題） 第一学習社
『 最新図説 倫理 』 浜島書店

IV 評価の観点・方法

1. 定期考査（中間・期末試験）
2. 提出物
3. 授業に対する思考力・判断力・表現力
4. 主体的・協働的な学びの姿勢

校長（ 松原 芳和 ） 教頭（ 垣花誠 ）

進度表

月		考査	単 元	学 習 内 容
四月	上旬	一学期中間考査	青年期の課題と自己形成	青年期の課題 自己の探求 ①青年期の心とからだ ②青年期の人間関係 ③個性化と社会化 現代の青年期
	中旬			
	下旬			
五月	上旬	一学期期末考査	人間としての自覚	よく生きることを求めて ギリシャの思想 キリスト教 イスラーム 仏 教 中国の思想
	中旬			
	下旬			
六月	上旬	二学期中間考査	国際社会に生きる日本人としての自覚	日本人の風土と伝統 外来思想の受容 ①日本仏教の展開 ②日本儒学の展開 町人意識のめざめと庶民思想 ①義理と人情 ②国学の成立 ③庶民の思想 西洋思想の受容
	中旬			
	下旬			
七月	上旬	二学期期末考査	現代の特質と倫理的課題	科学技術の発達とその功罪 資源の枯渇と環境問題の発生 少子高齢社会と家族・地域社会の変容 情報化社会の進展と新しい課題 進展する国際化と日本人の課題
	中旬			
	下旬			
九月	上旬	二学期期末考査	現代に生きる人間の倫理	人間の尊厳と自由 近代の科学革命と自然 民主社会における人間のあり方 幸福の追求と主体性の確立 生命への畏敬と社会奉仕
	中旬			
	下旬			
十月	上旬	二学期期末考査	現代の諸課題と倫理	生命倫理と課題 ①遺伝子操作と生殖革命 ②脳死と臓器移植 ③自己決定の医療と新しい死生観 環境倫理と課題 ①化学物質汚染と地球環境問題 ②自然との共生と環境保全・保護 ③開発と持続可能な循環型社会 家族・地域社会と課題
	中旬			
	下旬			
十一月	上旬	学年末考査		情報社会と課題 ①電子ネットワークの諸問題 ②情報の洪水と主体性の喪失 人類の福祉と課題 ①平和な世界に向けて ②地球市民として
	中旬			
	下旬			
十二月	上旬	学年末考査		
	中旬			
	下旬			
一月	上旬	学年末考査		
	中旬			
	下旬			
二月	上旬	学年末考査		
	中旬			
	下旬			

2023 (R5) 年度 政経探究 年間指導計画

科目名	(単位数)	学科・学年	授業担当者
政治経済	2 単位	普通科・理数科 3 年	平良栄二 印
年間予定時数	校長検印欄	教頭検印欄	
70時間			

1. 学習の到達度目標

広い視野に立って、民主主義に関する理解を深め、現代における政治・経済、国際関係などについて客観的に理解させ、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養うようにする。

使用教科書
副読本

「高等学校改訂版 政治・経済」 第一学習社
「最新政治・経済資料集2021」 第一学習社
「ウィニングコンパス倫理・政経/現社の整理と演習2022」 とうほう

2. 年間学習計画

学期	月	(編・章)	学習内容	学習のねらい	配当時間
一 学 期	第 1 編 現代の政治 日本の政治および国際政治について関心を高め、政治についての基本的な見方や考え方を身につけるために、政治に関する基本的な概念や理論について学習させる。				
	4 月 5 月 6 月	第 1 章 民主政治の基本原則と日本国憲法	①政治と法の機能	・ 基本的人権が確立するまでの歩みを理解させ、現代の政治の特質について考察させる。	1
			②人権保障と法の支配		2
			③議会制民主主義と政治の特質		1
			④日本国憲法の基本原理	・ 日本国憲法の成立過程を理解させ、日本国憲法のもつ意味について考察させる。また、三大原理についても理解させる。	2
			⑤基本的人権の保障と新しい人権	・ 日本国憲法の全体像にふれながら、平和や人権などの問題を考えさせる。	2
			⑥国会の組織と機能	・ 国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を高める。また、日本国憲法下での政治機構について理解させる。	2
			⑦内閣の機構と機能		2
			⑧裁判所の機能と人権保障		2
			⑨地方自治制度と住民の権利		2
			⑩政党政治と選挙		2
			⑪世論と現代政治の課題	・ マス＝メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて理解させる。	1

	月	(編・章)	学習内容	学習のねらい	配当時間
一 学 期	6 月 ～ 8 月	第2章 現代の国際政治と日本	①国際政治の動向	・ 冷戦終結後の国際社会の動向について理解させる。	2
			②国際社会と国際法	・ 国際連合の役割を理解させる。 また、現実には国際連合はどのような問題を抱えているのかについて学習させる。	2
			③国際連合の役割と国際協力		2
			④安全保障と日本の防衛	・ 国際平和と人類の福祉に向けて、日本が果たすべき役割について考えさせる。その際、広い視野から考えさせる。	2
			⑤国際政治の特質と国際紛争の諸要因		1
			⑥国際平和と日本の役割		2
二 学 期	第2編 現代の経済				
	現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、現代経済の機能について理解し、経済についての基本的な見方や考え方を学習させ				
	9 月 ～ 1 0 月	第1章 経済社会の変容と経済のしくみ	①資本主義経済の発展と社会主義経済の変容 ②経済主体と経済活動	・ 経済の基本的な概念や経済理論を学習させ、現代経済の特質について考えさせる。	2
			③市場経済の機能と限界	・ 市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解させる。	3
			④経済成長と景気変動	・ 経済活動の目的が国民の福祉の向上にあることを理解させ、その実現のためには経済成長と景気の安定が必要であることを気づくようにさせる。	2
			⑤財政のしくみとはたらき	・ 財政の基本的なしくみや役割について理解させる。	3
			⑥資金の循環と金融機関のはたらき	・ 日本の財政の現状を理解し、経済活動のあり方と福祉の向上について考察させる。	3
			⑦インフレーションと物価の動き	・ インフレ、デフレなどの基本的な用語を正しく理解させる。	2
			⑧日本経済の特質と福祉の向上	・ 金融機関をはじめ、日本経済が抱えている問題について認識させる。	2
			1 0 月 ～ 1 1 月	第2章 国民経済と国際経済	①国際経済のしくみと現状
	②為替相場のしくみ	・ 為替相場の国際経済における重要性について理解させる。			2
	③国際協調と国際経済機関の役割	・ 国際協調のために、どのような国際機関が存在するか、把握させる。			3
	④国際経済の諸問題と日本の役割	・ 貿易の自由化が経済に大きな影響を与え、それによって、地域的経済統合の動きなどがみられることを学習させる。			3

学期	月	(編・章)	学習内容	学習のねらい	配当時間
		第3編 現代社会の諸課題			
		第1編、第2編で学習した基本的な理解を深め、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決策について考察させる。			
二 学 期	1 2 月	第1章 現代日本の政治や経済の諸課題	①大きな政府と小さな政府	・現代の日本が抱える課題（①～⑨の中から選択）を、政治と経済との関連に留意しながら、さまざまな角度（視点）から考察し、望ましい解決のあり方を考えさせる。	8
			②少子高齢社会と社会保障		
			③住民生活と地方自治		
			④情報化の進展と市民生活		
			⑤産業構造の変化と中小企業		
			⑥農業と食料問題		
			⑦公害防止と環境保全		
			⑧消費者問題と消費者保護		
			⑨労使関係と労働市場		
三 学 期	1 月 ～ 2 月	第2章 や国際経済社会の諸課題の政治	①地球環境問題	・国際社会における課題（①～⑥の中から選択）を、国際的な視点から追究しながら、日本の役割について考察させる。	4
			②核兵器の廃絶と軍縮		
			③人種・民族問題		
			④経済摩擦と外交	・国際社会の課題は複雑であり、政治・経済の枠をこえたものが多く、国際関係に大きな影響を与えることを認識しながら考察させる。	
			⑤南北問題と国際協力		
			⑥国際社会における日本の役割		

令和5年度 地理Bシラバス

科目	地理B	単位	3単位	対象	3年普通科理系
目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
使用教科書 使用副読本	新詳地理B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新詳地理資料 COMPLETE2023（帝国書院）				
評価の観点	次の①～④を総合的に判断して評価する。 ①定期テスト、実力テスト、その他の小テストなど。 ②授業中の態度など積極的に授業に取り組んでいるか。 ③授業のプリントや課題などが提出されているか。 ④白地図ワーク、読図演習が解けているか。				

学期	月	単元と項目		学習の目標・内容	考查範囲
一学期	4	と 地 理 的 技 術	I 章 地理情報と地図 1 節 現代世界の地図 2 節 地図の種類とその利用	○様々な種類の地図の活用や地理情報の地図化などの学習活動を通して、現代世界の地理的事象をとらえるための技能を身につけていく。	中 間 考 査
	5	第 II 現 代 世 界 の 系 統 地 理 的 考 察	1 地球儀とさまざまな地図 2 時差の求め方 3 節 地理情報の地図化 2 章 地図の活用と地域調査 1 章 自然環境	また、直接的に調査できる地域を、地図を活用して実際に調査してみることで、生活圏の地域的特色をとらえるための技能を獲得するとともに、調べたことをまとめたり、発表したりする手法についても身につけていく。	
	6		1 節 世界の地形 1 世界の大地形 2 外的営力によってつくられる小地形 3 その他の地形 2 節 世界の気候 1 気候の成り立ち 2 世界の気候区分 3 植生と土壌 3 節 日本の自然の特徴と人々の生活	○世界の地形について、営力的な視点で分類し、大地形、小地形、その他の地形の分布や成因を考察するとともに、災害と恩恵など人間生活との関わりを考察する。 ○世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から、その成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察する。	
	7		1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災 4 節 環境問題 1 世界の環境問題 2 さまざまな環境問題 3 日本の環境問題	○日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴、防災のあり方を考察する。 ○世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、さまざまな環境問題のうちから地球温暖化、森林破壊、砂漠化について考察する。	

二 学 期	9	第Ⅱ 現代世界の系統地理的考察	2章 資源と産業 1節 産業の発達と変化 2節 世界の農林水産業 1 農業の発達と分布 2 世界の農業地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 世界の林業・水産業 5 日本の農林水産業 3節 食糧問題 1 世界の食料問題 2 さまざまな食料問題 3 日本の食料問題 4節 世界のエネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の利用と分布 2 鉱産資源の分布	○産業の発達と変化について、自然環境との関わりやグローバル化の視点から考察する。 ○農業地域区分や現代世界の農林水産業の現状と課題、世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。 ○食糧問題について、世界の食糧需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国と先進国での問題の違いについて考察する。 ○世界のエネルギー・鉱産資源について、エネルギー資源の利用と分布・消費の現状、鉱産資源の分布を考察する。	二 学 期 中 間 考 査
	10		5節 資源・エネルギー問題 1 現代世界の資源・エネルギー問題 2 さまざまな資源・エネルギー問題 3 日本の資源・エネルギー問題 6節 世界の工業 1 工業の発達と立地 2 世界の工業地域 3 現代世界の工業の現状と課題 4 日本の工業 7節 第3次産業 1 第3次産業の発展 2 世界の観光業 8節 世界を結ぶ交通・通信 1 世界の交通網 2 情報と通信 9節 現代世界の貿易と経済圏 1 私たちの生活を支える貿易 2 現代世界の貿易の現状と課題 3 日本の貿易の現状と課題	○世界の資源やエネルギー問題を大観し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題を考察する。 ○世界の工業について、工業の発達や立地、工業地域や工業の現状と課題を考察する。 ○第3次産業について、現代世界の第3次産業の発展と世界と日本の観光業の特色を考察する。 ○様々な交通機関の発達による一体化地域差・課題を考察する。 ○世界貿易や経済圏の現状と課題や日本の貿易や経済の現状と課題を考察する。	
	11		3章 人口、村落、都市 1節 世界の人口 2節 人口問題 1 世界の人口問題 2 発展途上国の人口問題 3 先進国の人口問題	○世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。 ○どのような人口問題があるのか発展途上国と先進国との違いを考察する。	

			4 日本の人口問題 3節 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の機能と生活 4 日本の都市 4節 都市・居住問題 1 世界の都市・居住問題 2 日本の都市・居住問題	○村落・都市の立地や発達・機能や日本の都市の特徴を考察する。 ○都市・居住問題の大観し、その要因と発生のしくみを先進国、発展途上国に分けて考察する。
	1 2		4章 生活文化、民族、宗教 1節 生活文化 1 生活文化の地域的差異 2 生活文化の世界的な画一化 3 日本の生活文化 2節 民族と宗教 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題 1 世界の民族・領土問題 2 民族・領土から捉えた日本 3 民族と宗教の共生に向けての課題	○衣食住の特徴から人々の生活の地域差はどのように生まれたかを考察する。 ○民族とは何か。少数民族や言語の問題に着目しながら考察する。 ○国家について、領域と国境のきまりやさまざまな国家の形体について考察する。 ○世界各地で起こっている民族・領土問題の大観し、その原因を言語、宗教や領土に着目しながら考察する。 ○地域概念や地域区分の目的、意義を理解し有用性に気づく。
三 学 期	1	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か 2節 地域区分の様々なスケール 2章 現代世界の諸地域 1節 地誌の考察方法 2節 東アジア 1 多くの民族と人口を抱える中国 2 中国の食生活と農業の変化 3 中国の工業化と経済発展 4 今後の中国の動向と日本 5 朝鮮半島の成り立ち 6 韓国の産業の発展と変化 7 隣国との交流と今後の動向 3節 東南アジア 1 東南アジアの歴史と多様性に富む文化・民族 2 東南アジアの農業とその変化	○大地域と小地域のスケールによる違いを理解し、有用性に気づく。 ○地誌の考察方法について、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察するなど多様な考察方法があることを理解する。 ○多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ○多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。

学
年
末
考
査

			3 ASEAN の結成と工業の発展 4 ASEAN 諸国の変化と諸課題 4 節 南アジア 1 南アジアの歩みとヒンドゥー教 2 インドの農業と農村の変化 3 発展するインドの工業・IT 産業 5 節 西アジアと中央アジア 1 イスラームを中心とした生活文化 2 交易を軸に発達した都市 3 めぐまれた資源と産業 6 節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 1 歴的な背景によって形成された多様な文化 2 一次産品への依存が強い産業 3 人々の生活の変化と他地域との結びつき	○多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ○類似的な性格の二つの地域を比較して考察する。 ○対照的な二つの地域を比較して考察する。 ○多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
			7 節 ヨーロッパ 1 ヨーロッパの成り立ち 2 結びつくヨーロッパ 3 ヨーロッパの多様な農業と共通農業政策 4 移り変わるヨーロッパの工業 5 これからのヨーロッパ	○多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
			8 節 ロシア 1 ロシアの歴史と社会の変化 2 大きく変化したロシアの産業 3 極東ロシアと日本の結びつき 9 節 アングロアメリカ 1 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 2 アメリカ合衆国の人口と都市 3 世界の農業のかぎをにぎるアメリカ合衆国 4 進展する科学技術と産業 5 世界のなかのアメリカ合衆国 6 アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダ	○多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ○特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。
			10 節 ラテンアメリカ 1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化 2 大土地所有制と農業の変化 3 鉱産資源を基盤とした工業化と生活の変化 11 節 オセアニア 1 オセアニアの移民の歴史と多文化社会 2 モノや人の移動で強まるアジアとの結びつき 3 資源を通じて強まるアジア諸国との結びつき 4 アジア諸国に輸出される農畜産物	○特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。 ○現代世界における日本の特色について、多面的・多角的に考察し、日本が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土のあり方などについて展望する。

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界						
1章 地図や地理情報システムと現代世界					1章の目標 ①地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。 地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につける。 ②各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ③目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだす。	①地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。 地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につけている。 ②各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1節 地球儀と地図					節の主題	
1 学 期	4	1	p.6-7	1 地球上の位置と地上の現象	私たちは地球上の位置をどのようにしてとらえているのだろうか。位置の違いによってもたらされる影響に着目しながらみていこう。	①地球上における位置のとらえ方について理解している。 ②地球上における位置の違いは、どのような物事に、どのような形となって現れているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地球上における位置の違いによって生じている物事について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 学 期	4	1	p.8-9	2 経度の違いと時差	世界各地の時差はなぜ生じるのだろうか。時差が生活に与える影響に着目しながらみていこう。	①時差が生じる理由や、時差の求め方について理解している。 ②時差が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③時差が生じることによる人々の生活への影響について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 学 期	4	2	p.10-11	3 球体と平面の世界	球体の地球儀と平面の地図では、世界をとらえる際にどのような違いがあるのだろうか。それぞれの利用法に着目しながらみていこう。	①球体でとらえる世界と、平面でとらえる世界に違いが生じることについて理解している。 ②球体の地球儀と平面の地図を利用しながら、世界の姿をとらえる際にどのような違いが生じるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③球体の地球儀と平面の地図それぞれの適切な利用のしかたについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
2節 地図と地理情報システム					節の主題	
1 学 期	4	3	p.12-13	1 地図の種類	地図は目的に応じてどのように使い分けられるのだろうか。表現方法や縮尺（スケール）、主題（テーマ）に着目しながらみていこう。	①さまざまな図法によって描かれた地図の特徴や、目的に応じて地図が使い分けられていることについて理解している。 ②表現方法や縮尺、主題に着目しながら、目的に応じてどの地図の利用が適しているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③目的に応じた地図の利用のしかたについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 学 期	5	4	p.14-15	2 地理情報システムの利用	地理情報システム（GIS）は、私たちの生活のなかでどのように役立てられているのだろうか。GISの特徴に着目しながらみていこう。	①地理情報システムの特徴や、利用されている場面について理解している。 ②地理情報システムの特徴に着目しながら、地理情報システムが生活のなかでどのように役立てられているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地理情報システムの現在の利用方法や、これからの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
単元テスト						
2章 結びつきを深める現代世界					2章の目標 ①世界を構成する国家の領域の定め方や、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解する。 国家の領域や世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を見いだすための、読図の技能を身につける。 ②国家の領域はどのように定められており、どのような領土問題があるのかや、世界の国々はどのように結びついており、どのような交通、通信、人の移動の特徴があるのかについて、地図を通して多面的・多角的に考察し、表現する。 ③国家の領域の定め方や領土問題、世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだす。	①世界を構成する国家の領域の定め方、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解している。 国家の領域や世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を見いだすための、読図の技能を身につけている。 ②国家の領域はどのように定められており、どのような領土問題があるのかや、世界の国々はどのように結びついており、どのような交通、通信、人の移動の特徴があるのかについて、地図を通して多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国家の領域の定め方や領土問題、世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだしている。

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
1節 現代世界の国家と領域					節の主題 国家の領域と国境はどのように定められ、日本の位置と領域にはどのような特徴があるのだろうか。	
1 学 期	5	5	p.22-23	1 国家の領域と国境	世界には、どのような国境があるのだろうか。国境の引かれ方や国境によって定まる領域に着目しながらみていこう。	①さまざまな国境によって国家の領域が定められていることについて理解している。 ②国境の引かれ方や、国境によって定められた領域に着目しながら、世界や日本がどのように国家の領域を定めているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③場所や国家によって異なる国境の定め方について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 学 期	5	5	p.24-25	2 地図から見る日本の位置と領域	地図に見られるような日本の位置や領域には、どのような特徴があるのだろうか。排他的経済水域や領土をめぐる問題に着目しながらみていこう。	①日本の位置や領域の特徴について理解している。 ②排他的経済水域や領土をめぐる問題に着目しながら、日本の位置や領域にどのような特徴があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③世界や日本の国家の領域をめぐるさまざまな問題について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
2節 地図から見る国内や国家間の結びつき					節の主題 現代世界を表したさまざまな地図から、人やモノ、情報の結びつきをどのように読み取ることができるだろうか。	
1 学 期	5	6	p.26-27	1 グローバル化と多様な結びつき	地図を通して、国家間の結びつきの変化を、どのようにとらえることができるだろうか。経済圏に着目しながらみていこう。	①国家間の結びつきの変化をとらえるのに地図が有用であることを理解している。 ②経済圏に着目しながら、国家間の結びつきがどのように変化しているのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地図から読み取れる国家間の結びつきの変化について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 学 期	5	7	p.28-29	2 拡大する貿易	地図を通して、世界の貿易の特徴はどのようにとらえることができるだろうか。先進国と発展途上国の関係や、各国間の協定に着目しながらみていこう。	①世界の貿易の特徴をとらえるのに地図が有用であることを理解している。 ②先進国と発展途上国の関係や、各国間の協定に着目しながら、世界の貿易にはどのような特徴があるのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地図から読み取れる世界の貿易の特徴について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 学 期	6	8	p.30-31	3 世界を結ぶ交通・通信	地図を通して、交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化はどのようにとらえられるだろうか。地域差に着目しながらみていこう。	①交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化をとらえるのに地図が有用であることを理解している。 ②地域差に着目しながら、交通網・通信網の発達による世界の結びつきがどのように変化しているのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地図から読み取れる交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 学 期	6	9	p.32-33	4 観光と人の移動のグローバル化	地図を通して、人々の移動はどのようにとらえられるだろうか。人々の移動の目的に着目しながらみていこう。	①人々の移動の特徴をとらえるのに地図が有用であることを理解している。 ②移動の目的に着目しながら、人々が何を求めて、どのように移動しているのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地図から読み取れる人々の移動の特徴について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
単元テスト						
2部 国際理解と国際協力						
1章 生活文化の多様性と国際理解					1章の目標 ①世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解する。 世界的生活文化の多様性の背景となるものや、世界的生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につける。 ②地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界的生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ③世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだす。	①世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 世界的生活文化の多様性の背景となるものや、世界的生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につけている。 ②地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界的生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。

学期	月	時限	教科書ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例
序説 生活文化の多様性					世界各地の特色ある生活文化について、その背景にある自然環境や社会環境に着目し、テーマごとに考察していこう。	①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
1学期	6	10	p.36-37	1 生活文化を考察する視点	世界各地でみられる多様な生活文化やその変化の要因を多面的・多角的にとらえるためには、どのような視点をもつことが重要だろうか。	①世界の多様な生活文化を生む要因となっている地理的環境とはどのようなものなのかについて理解している。 ②世界の生活文化の多様性や変化の要因をとらえるために、自然環境や社会環境といった視点から多面的・多角的に考察し、表現している。 ③世界の生活文化が地理的環境と深く関わることで多様性をもったり、変化したりすることについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1節 世界の地形と人々の生活					節の主題 世界各地にみられる地形は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。	
夏休みの課題			p.38-39	1 生活と地形の関わり	高く険しい大山脈や広大な平原といった大規模な地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。自然の恵みに着目しながらみていこう。	①世界の大山脈や大平原が、なぜそこに、どのようにできてきたのかについて理解している。 ②世界の大山脈や大平原の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③大規模な地形が人々の生活に影響を与えている様子について、恩恵となる部分を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。
			p.40-41	2 河川がつくる地形と人々の生活	河川がつくる地形の上では、人々はどのように生活しているのだろうか。地形の特徴や土地利用に着目しながらみていこう。	①河川がつくるさまざまな地形が、なぜそこに、どのようにしてできてきたのかについて理解している。 ②河川がつくるさまざまな地形の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③河川がつくる地形が人々の生活に影響を与えている様子について、地形の特徴や土地利用を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。
			p.42-43	3 海岸の地形と人々の生活	海岸にはどのような地形がみられ、人々の生活にどのように利用されているのだろうか。地形の成り立ちや変化に着目しながらみていこう。	①海岸にみられるさまざまな地形が、なぜそこに、どのようにしてできてきたのかについて理解している。 ②海岸にみられるさまざまな地形の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③海岸の地形が人々の生活に影響を与えている様子について、地形の成り立ちや変化を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。
			p.44-45	4 氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活	観光資源となっている氷河地形、カルスト地形、乾燥地形には、どのような特徴がみられるだろうか。景観に着目しながらみていこう。	①氷河地形、カルスト地形、乾燥地形が、なぜそこに、どのようにしてできたのかについて理解している。 ②氷河地形、カルスト地形、乾燥地形の形成過程や、それらの地形がどのような点で人々をひきつけているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③氷河地形、カルスト地形、乾燥地形の景観としての特徴を見いだしたうえで、それらの地形が観光資源として人々をひきつけている要因について主体的に追究し、課題を見いだしている。
2節 世界の気候と人々の生活					節の主題 気候の違いは、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。	
1学期	6	15	p.48-49	1 生活と気候の関わり	世界の気候は、どのように広がり、人々の生活とどのように関わり合っているのだろうか。衣食住に着目しながらみていこう。	①世界の気候の広がりや、気候と人々の生活が深く関わり合っていることについて理解している。 ②衣食住に着目しながら、世界の気候がどのような広がり方をしているのかや、気候と人々の生活がどのように関わり合っているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③気候と深く関わり合いながら人々が生活を築いてきたことについて、衣食住を手がかりに主体的に追究し、課題を見いだしている。
1学期	6	16	p.52-53	2 熱帯の気候と人々の生活	1年を通して気温が高く、降水量も多い熱帯の地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか。乾季の有無に着目しながらみていこう。	①熱帯の特徴や広がり、気候と深く関わり合いながら、熱帯のなかでも異なる生活が築かれてきたことについて理解している。 ②乾季の有無に着目しながら、熱帯のなかでも気候の差異がみられることや、各地で人々がどのような生活を築いてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③熱帯という気候を背景に、人々が築いてきた生活上の工夫や合理性について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1学期	7	17	p.54-55	3 乾燥帯の気候と人々の生活	降水量が非常に少ない乾燥帯の地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか。年降水量と灌漑設備に着目しながらみていこう。	①乾燥帯の特徴や広がり、降水に恵まれないなかでも人々が工夫をしながら生活してきたことについて理解している。 ②年降水量と灌漑設備に着目しながら、乾燥帯において人々がどのような生活を築いてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③乾燥帯という気候を背景に、人々が築いてきた生活上の工夫や合理性について、主体的に追究し、課題を見いだしている。

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
1 学 期	7	18	p.56-57	4 温帯の気候と人々の生活	人間にとって暮らしやすい温帯の地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか。大陸の西岸、東岸の違いに着目しながらみていこう。	①温帯の特徴や広がり、気温や降水の面で恩恵を受けながら人々の生活が築かれてきたことについて理解している。 ②大陸の西岸と東岸の違いに着目しながら、温帯のなかでも気候の差異がみられることや、各地で人々がどのような生活を築いてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③温帯という気候を背景に、人々が築いてきた生活上の工夫や合理性について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
学	7	19	p.58-59	5 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活	寒さが厳しい亜寒帯・寒帯の地域では、人々はどのような生活をしているのだろうか。地域による植	①亜寒帯・寒帯の特徴や広がり、厳しい寒さのなかでも人々の生活が築かれてきたことについて理解している。 ②植生や夏の違いに着目しながら、亜寒帯・寒帯のなかでも気候の差異がみられることや、人々が寒さに対応し
3節 世界の産業と人々の生活					節の主題 産業の発展は人々の生活にどのような影響を与えてきたのだろうか。	
1 学 期	7	20	p.60-61	1 生活を支える農業の発展	農業の国際化や技術の発達、世界の人々の生活にどのような影響を与えてきたのだろうか。私たちの食生活をイメージしながらみていこう。	①農業の国際化や技術の発達が、世界の人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ②自らの食生活をイメージしながら、農業の国際化や技術の発達が、世界の人々の生活にどのような影響を与えてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③農業の発展が、自らの食生活だけでなく世界の人々の生活も変えてきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1 学 期	7	21	p.62-63	2 生活を支える工業の発展	工業の発展は世界の人々の生活をどのように変化させてきたのだろうか。発展の経緯や移り変わりに着目しながらみていこう。	①工業の発展が世界の人々の生活を変化させてきたことについて理解している。 ②工業の発展の経緯や移り変わりに着目しながら、技術の進歩が世界の人々の生活をどのように変えてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③工業の発展と深く関わりながら、世界の人々の生活が変化してきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
単元テスト						
4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活					節の主題 宗教・民族・言語は人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。	
1 学 期	9	22	p.64-65	1 宗教・民族・言語の多様性	宗教や言語などの文化は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。それぞれの文化を形成する民族に着目しながらみていこう。	①宗教や言語といった文化が、民族というまとまりの形成や、人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ②世界の民族に着目しながら、各民族がどのような文化や生活様式をもっているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③宗教や言語といった文化が各民族を特徴づけ、人々の生活を形づくってきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
5節 多様な生活文化と地理的環境					世界各地の特色ある生活文化を考察するにあたって、まず日本の生活文化における世界と共通点・相違点に着目してみよう。そして、自然環境、産業、宗教・歴史、結びつきの各テーマから一つずつ事例を選んで学習していこう。	
1 学 期	9	23	p.68	1 国際理解を深めるために		
1 学 期	9	23	p.69-71	2 世界からみた日本の生活文化	さまざまな地理的環境のなかで育まれてきた日本と世界各地の生活文化には、どのような共通点・相違点があるのだろうか。	①日本と世界各地の生活文化の共通点・相違点を生み出す要因に、地理的環境があることについて理解している。 ②衣食住などに着目しながら、日本と世界各地の生活文化にどのような共通点・相違点があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本と世界各地の生活文化の共通点・相違点を、地理的環境を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。
事例1 産業① 経済発展による生活文化の変化 -東アジア-					主題 急速な経済発展は、人々の生活や文化にどのような変化をもたらしたのだろうか。	

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
2 学 期	9 10	24 39	p.74-75	1 多民族国家における経済発展—中国—	多民族からなる中国において、経済発展は人々の生活にどのような変化をもたらしたのだろうか。言語や宗教、歴史に着目しながらみていこう。	①多民族国家として中国をとらえたうえで、経済発展が人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ②言語や宗教、歴史に着目しながら、中国の経済発展が人々の生活をどのように変化させたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③多民族国家としての中国における経済発展が、人々の生活の変化として現れていることについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
2 学 期	9 10	24 39	p.76-77	2 多様な食文化とその変化—中国—	経済発展は、中国の食生活にどのような変化をもたらしたのだろうか。地域ごとに異なる食文化や農業に着目しながらみていこう。	①経済発展に伴って、中国の食生活が変化したことについて理解している。 ②自然環境の差異や農業に着目しながら、経済発展が中国の食生活をどのように変化させたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③自然環境の差異や農業の特徴を踏まえたうえで、経済発展に伴う中国の食生活が各地でさまざまな変化として現れていることについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
2 学 期	9 10	24 39	p.78-79	3 巨大な人口と暮らしの変化—中国—	経済発展を支える中国の豊富な労働力は、どのように変化してきたのだろうか。人口政策や人口構成に着目しながらみていこう。	①経済発展をもたらした中国の豊富な人口が、人口政策を経て、人口構成の面で変化してきたことについて理解している。 ②人口政策や人口構成に着目しながら、経済発展をもたらした中国の豊富な人口がどのように変化してきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③人口政策や人口構成の変化を踏まえたうえで、中国における経済発展と人口の関係性について主体的に追究し、課題を見いだしている。
2 学 期	9 10	24 39	p.80-81	4 都市生活と広がる格差—中国—	経済発展に伴う中国の都市化は、そこに暮らす人々の生活にどのような変化をもたらしたのだろうか。地域格差に着目しながらみていこう。	①経済発展に伴う中国の都市化によって、人々の生活が変化してきたことについて理解している。 ②都市化が進んだ地域とそうでない地域があることに着目しながら、経済発展がそれぞれの地域で人々の生活をどのように変化させたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③都市化の進展度合いの地域的差異や、そのことによって生じる経済格差の問題と対策について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
2 学 期	9 10	24 39	p.156-157	3 強まるアジアとの結びつき	深まるアジアとの交流は、人々の生活や国の産業にどのような影響を与えているだろうか。文化的交流や経済的交流に着目しながらみていこう。	①アジアとの交流の深まりが、人々の生活や国の産業に影響を与えていることについて理解している。 ②文化的交流や経済的交流に着目しながら、アジアとの交流が人々の生活や国の産業にどのような影響を与えているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③新たな地域との交流が深まることで、人々の生活や国の産業が変化してきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
単元テスト						
2章 地球的課題と国際協力				2章の目標		①地球的課題が生じている場所や要因、課題とそれが相互に関係していることについて理解している。 地球的課題が生じている場所や要因、課題とそれが相互に関係していることを見いだすための、地理的目
序説 複雑に絡み合う地球的課題				この章で学習する地球的課題がどのように絡み合っているか、広い視野で考えてみよう。		
2 学 期	10	40	p.162-163	1 地球的課題と解決に向けた目標	世界にはどのような地球規模の課題があり、課題どうしはどのように関わり合っているだろうか。SDGsの目標と照らし合わせてみていこう。	①どのような地球規模の課題があり、課題どうしがどのように関係しているのかについて理解している。 ②SDGsと照らしながら、地球規模の課題や、課題どうしの関係性について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地球規模の課題に対するSDGsの達成に向けて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1節 人口問題				節の主題 地域によって異なる人口問題に対し、どのような対策ができるのだろうか。		

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
2 学 期	10	41	p.164-165	1 人口の増加と少子化・高齢化	世界にはどのような人口問題があるのだろうか。人口増加と人口減少、どちらの現象にも着目しながらみていこう。	①世界のどこで、どのような人口問題が生じているのかについて理解している。 ②人口増加と人口減少のそれぞれが、どこで、どのように生じており、何が要因となっているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③人口問題が生じている場所や要因となっているものについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
学	10	42	p.166-167	2 地域で異なる人口問題と取り組み	人口が増加する地域と人口が減少する地域では、どのような取り組みが行われているのだろうか。国	④人口問題に対してどのような取り組みが行われているのかについて理解している。 ⑤国際機関や政府の動きに着目しながら、人口が増加する地域と減少する地域のそれぞれで、どのような取り組み
2節 食料問題				節の主題 世界にはどのような食料問題があり、その解決のためにどのような取り組みが必要だろうか。		
学	10	43	p.168-169	1 飢餓と飽食	世界や日本にはどのような食料問題があるのだろうか。その原因と、解決のための取り組みに着目し	①世界と日本でどのような食料問題が生じているのかについて理解している。
3節 都市・居住問題				節の主題 世界にはどのような都市・居住問題があり、どのような取り組みが行われているのだろうか。		
2 学 期	11	44	p.170-171	1 都市への人口集中	世界の都市では、どのような問題が生じているのだろうか。人口移動に伴う都市の変化に着目しながらみていこう。	①世界でどのような都市問題が生じているのかについて理解している。 ②人口移動に伴う都市の変化に着目しながら、都市問題がどこで、どのように生じているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③都市を形成する人々の動きを踏まえたうえで、都市問題の生じる過程や現れ方について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
学	11	45	p.172-173	2 地域で異なる都市・居住問題と取り組み	都市・居住問題の原因となっているものは何だろうか。地域ごとに異なる背景に着目しながらみてい	④都市・居住問題が各地でどのような現れ方をしているのかについて理解している。
4節 感染症・衛生問題				節の主題 私たちは、広がりを増す感染症・衛生問題とどのように向き合う必要があるのだろうか。		
学	11	46	p.174-175	1 広がる感染症と衛生問題	感染症はこれまでどのように解決が図られてきたのだろうか。グローバル化や衛生環境に着目しながら	①世界の感染症がどこで、どのように現れ、どのように解決が図られてきたのかについて理解している。
5節 資源・エネルギー問題				節の主題 私たちは生活に欠かせない資源・エネルギーをどのように生み出し、利用していくべきだろうか。		
2 学 期	11	47	p.176-177	1 限りある資源・エネルギー	資源・エネルギーはどこで生産され、どこで消費されているのだろうか。地域的な偏りとこれからの対応に着目しながらみていこう。	①資源・エネルギーの生産地と消費地は、それぞれ地域的に偏在していることについて理解している。 ②資源・エネルギーの生産地と消費地が、なぜ、どのように偏在しているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③資源・エネルギーの生産地・消費地が、地域的に偏在していることへの対応について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
学	11	48	p.178-179	2 地域で異なる資源・エネルギー問題と取り組み	私たちは資源・エネルギー問題とどのように向き合っていけばよいのだろうか。「安全と安定」に着	④どのような資源・エネルギー問題が生じており、どのような対策が求められるのかについて理解している。
6節 地球環境問題				節の主題 地球環境問題を解決するためにはどのような取り組みが求められるのだろうか。		

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
2 学 期	11	49	p.180-181	1 国境を越えて広がる地球環境問題	地球環境問題は世界各地でどのような影響を及ぼしているのだろうか。海洋汚染や熱帯林破壊に着目しながらみていこう。	①地球環境問題がどこで、どのような影響を及ぼしているのかについて理解している。 ②海洋汚染や熱帯林破壊に着目しながら、地球環境問題がどこで、どのように生じており、どのような影響が生じているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地球環境問題が引き起こされる要因や、各地に及ぼす影響について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
2 学 期	11	50	p.182-183	2 地球温暖化と国際的な取り組み	持続可能な開発を実現するためには、どのような課題があるのだろうか。国際的な取り組みに着目しながらみていこう。	①持続可能な開発に向けて課題となっていることや、国際的な取り組みが必要なことについて理解している。 ②国際的な取り組みに着目しながら、持続可能な開発はどのように実現できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③持続可能な開発を実現するために必要なことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
単元テスト						
3部 持続可能な地域づくりと私たち						
1章 自然環境と防災					1章の目標 ①自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解する。 自然災害が生じる場所や要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを見いだすための、地理の見方・考え方を身につける。 ②どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ③自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだす。	①自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解している。 自然災害の発生場所や要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを見いだすための、地理の見方・考え方を身につけている。 ②どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
1節 日本の自然環境					節の主題 日本の自然環境は、世界と比較するとどのような特徴があるのだろうか。	
2 学 期	12	51	p.188-189	1 日本の自然環境と人々の生活	日本の自然環境にはどのような特徴があるのだろうか。地形や気候と自然災害との関係に着目しながらみていこう。	①世界と比較した日本の自然環境の特徴について理解している。 ②地形や気候、自然災害との関係に着目しながら、日本の自然環境にはどのような特徴があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③世界の地形や気候、自然災害と比較した日本の自然環境の特徴について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
2節 地震・津波や火山活動による災害と防災					節の主題 地震・津波や火山活動による災害を防ぐためには、どのような取り組みが必要だろうか。	
3 学 期	12	52	p.190-191	1 地震・津波のしくみと被害	地震による揺れの大きさの違いは、なぜ生じるのだろうか。地震が発生する場所や震源からの距離に着目しながらみていこう。	①地震が発生するメカニズムや、生じる場所と揺れの大きさの関係について理解している。 ②地震が発生する場所や震源からの距離に着目しながら、地震がどのように生じ、場所によってどのような現れ方をするのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地震の生じるメカニズムや、発生場所と揺れの関係性について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	12	53	p.192-193	2 地震・津波災害と地域の取り組み	地震によって、私たちはどのような被害を受ける可能性があるのだろうか。東日本大震災と阪神・淡路大震災による被害に着目しながらみていこう。	①地震によってもたらされる被害について理解している。 ②東日本大震災や阪神・淡路大震災による被害に着目しながら、地震によってどのような被害が生じるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地震によって人々の生活がどのような被害を受けるのかについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	12	54	p.194-195	3 火山の恵みと噴火による被害	火山は、私たちの生活とどのように関わっているのだろうか。火山があることによる恵みと、噴火による被害に着目しながらみていこう。	①火山がもたらす被害がある一方、恩恵を受けてもいることについて理解している。 ②火山がもたらす被害と恩恵の両側面に着目しながら、火山と深く関わりながら人々がどのような生活を築いてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③火山と人々の生活が深く関わっていることについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例
3 学 期	12	55	p.196-197	4 火山災害と地域の取り組み	火山の噴火に備え、周辺に暮らす地域の人々はどのような対策をしているのだろうか。普賢岳と桜島の噴火による被害に着目しながらみていこう。	①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度 ①火山の周辺に暮らす人々が、過去の教訓を踏まえて行っている対策について理解している。 ②普賢岳や桜島の噴火による被害に着目しながら、火山の周辺で暮らす人々がどのような対策をしているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③火山の周辺で暮らすうえで必要な対策について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	12	56	p.198-199	5 地震・津波や火山活動への対策と共生の道	地震・津波や火山活動に対して、日本や世界の国々はどのように向き合っているのだろうか。防災の取り組みや生活との関わりに着目しながらみていこう。	①地震・津波や火山活動に対して、日本や世界の国々が行っている対策について理解している。 ②防災の取り組みや生活との関わりに着目しながら、日本や世界の国々が地震・津波や火山活動に対してどのような対策を行っているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③人々の生活のなかにみられる地震・津波や火山活動への取り組みや対策について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3節 気象災害と防災					節の主題 気象災害を防ぐために、どのような取り組みが必要だろうか。	
3 学 期	1	57	p.200-201	1 さまざまな気象災害	気象災害にはどのようなものがあるのだろうか。場所による被害の違いに着目しながらみていこう。	①場所によってどのような気象災害が生じるのかについて理解している。 ②場所による被害の違いに着目しながら、どのような気象災害がどのような場所で生じるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③気象災害が生じる場所とその要因について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	1	58	p.202-203	2 気象災害と地域の取り組み	集中豪雨や大雪に備えて、私たちはどのような対策をするべきだろうか。新興住宅地や交通機関などへの影響に着目しながらみていこう。	①集中豪雨や大雪への備えとして必要な対策について理解している。 ②新興住宅地や交通機関への影響に着目しながら、集中豪雨や大雪への備えとしてどのような対策が必要なのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③集中豪雨や大雪に対して脆弱な場所や、影響を受ける社会基盤について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	1	59	p.204-205	3 気象災害への対策と備え	気象災害に対して、日本や世界の国々はどのように向き合っているのだろうか。気象災害が人々の生活に与える影響に着目しながらみていこう。	①気象災害に対して、日本や世界の国々が行っている対策について理解している。 ②気象災害が人々の生活に与える影響に着目しながら、気象災害に対して日本や世界の国々がどのように向き合っているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③気象災害が人々の生活に影響を与えることを踏まえたうえで、気象災害への向き合い方や必要な対策について、主体的に追究し、課題を見いだしている。
4節 自然災害への備え					節の主題 自然災害に対して、私たちはどのように備えるべきだろうか。	
3 学 期	2	60 62	p.206-207	1 減災への取り組みと被災地への支援	自然災害による被害を最小限にするために、私たちはどのような準備をするべきだろうか。事前の備えに着目しながらみていこう。	①自然災害による被害を最小限にするために必要な備えについて理解している。 ②事前の備えに着目しながら、自然災害による被害はどのように最小化することができるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③自然災害による被害を最小限にするために、事前にできる備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
単元テスト						

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目(タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
2章 生活圏の調査と地域の展望					2章の目標 ①生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解する。 生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたについての技能を身につける。 ②事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ③生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだす。	①生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたを理解している。 生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたについての技能を身につけている。 ②事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③生活圏の調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	3	63 64	p.214-215	1 地理的な調査テーマの設定	私たちの生活圏にはどのような地理的課題があるのだろうか。「問い」を探し、事前調査を行うことで、調査テーマを絞り込んでみよう。	①生活圏の調査を行ううえで、「問い」を立てることや事前調査が必要なことについて理解し、技能として身につけている。 ②自らの生活圏に対してどのような「問い」が立てられるのかや、どのような事前調査が必要なのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③自らの生活圏に対して「問い」を立てたり、事前調査の方法を考えたりするなど、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	3	65	p.218	2 事前調査と現地調査	事前調査の結果から、どのような仮説を立てたらよいだろうか。仮説の検証に向けた調査項目も考えながら準備をし、現地調査に行ってみよう。	①事前調査の結果から仮説を立てることや、調査項目を準備したうえで現地調査を行うことについて理解し、技能として身につけている。 ②事前調査の結果からどのような仮説や調査項目が立てられるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③仮説や調査項目など、現地調査を行ううえで必要なことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	3	66	p.220-221	3 調査結果の分析と仮説の検証	現地調査の結果から分かったことは何だろうか。他地域の似た事例と比較しながら、調査結果を分析・整理し、仮説の検証をしてみよう。	①現地調査の結果を分析・整理し、仮説の検証を行うことについて理解し、技能として身につけている。 ②他地域の似た事例と比較するなど、仮説をどのように検証するのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③現地調査の結果を分析・整理したり、他地域の事例と比較したりしながら仮説の検証を行うことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。
3 学 期	3	67 68	p.222	4 調査結果のまとめと地域づくりへの参画	調査結果を地域に還元するにはどのような取り組みが必要だろうか。調査結果の発表方法にも着目しながら実践してみよう。	①調査結果の発表方法や、調査結果を地域に還元するために必要な取り組みについて理解し、技能として身につけている。 ②調査結果の発表方法に着目しながら、現地調査の結果をどのようにまとめ、発表するのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③調査結果を地域に還元するという視点をもちながら、調査結果のまとめ方や発表のしかたについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。